

## Ⅱ 外国語学部

### 1 設置の趣旨及び必要性

#### (1) 教育研究上の理念、目的

##### ・沿革と理念策定までの経緯

外国語学部は、昭和41年の男女共学の愛知県立大学として発足するに際して、英米学科とフランス学科の二学科からなる学部、同第二部として設置された。その2年後に、スペイン学科が増設された。

さらに、平成10年には、外国語学部と同第二部という体制を、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）に規定する「昼夜開講制」へ変えると同時に、新たにドイツ学科と中国学科を設置した。

外国語学部は、平成10年度での拡充移転に際しての基本方針のうち、特に「国際化」への対応に関わる理念と人材育成の目的を課せられている。「進展する国際化に対応して、豊かな国際感覚と国際認識を備えた人材の育成」に際して、まずは、その前提として外国語の高度な運用能力の習得がなければならない。そこで本学部では、教育研究の目的と人材像の双方において、当該地域、ないしは当該言語圏に関する学際的知識の習得と同時に、特に外国語の運用能力の習得が重視されてきた。

次に、学際的地域研究の側面であるが、それは本学部名の英語名称が **School of Foreign Studies** であることに端的に表現されている。ここでいう **Foreign Studies** つまり「外国研究」とは、外国の様々な地域に関する学問領域の研究を広く指すものであって、言語、文学、文化、芸術、宗教、歴史、社会、法律、経済などの人文・社会科学に関するすべての領域を含むとよい。

以上のような領域での知識の習得や研究に際しては、既に述べたように、その前提として当該の外国語の習得と、その徹底した訓練が必要となる。そのような意図の下、各学科では主として1・2年次に外国語の習得に重点を置いたカリキュラムが組まれている。そして、その上でそれぞれの諸地域、つまりアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン、あるいは他のヨーロッパ、さらにはスペイン語圏のラテンアメリカ、中国等のアジアに関わる諸対象領域の学問的知識が教授されてきた。

また、昭和41年から平成10年の長久手キャンパス移転までには、各対象地域に限定された研究対象領域ではなく、学部横断的な知見、つまり人文・社会科学の学問的基礎や国際関係にまつわる諸科目も設置され、「学部共通科目」が整備された。その科目群設置の考え方は、次の三つからなっている。まず、世界の諸地域、ないしは国の文化や社会は、他の地域や国々と様々な形で関わり合っているという点。つぎに、言語、文化や社会の研究には、その分野の基礎知識が必要であるという点。さらには、自分自身の国や自国の文化、言語についての深い知識が必要であるという点。以上の三点から、法律や政治、経済、国際関係、および日本語教育に関する科目が設置された。

##### ・新理念の策定

以上のような経緯で、現在まで本学部は教育・研究活動を押し進めてきたが、愛知県立大学は、次のような学部・学科再編のコンセプトを定めた。

- ①グローバルな多文化共生を目指す
- ②社会における人間の共生を支える
- ③科学技術と人間の共生を図る

このうち、特に外国語学部に関わるコンセプトである①は、さらに次の項目にパラフレーズされた。

■グローバルな「多文化共生」の実現に資する人文社会科学

■言語、文化、社会に関わる教育・研究と、異文化理解・自文化理解、地域文化理解能力の涵養

■高度な外国語能力あるいは優れた日本語能力と、異文化・自文化理解能力を備え、国際社会に羽ばたき、地域の国際化を担う人材の養成

■地域の国際化・多文化共生を進める政策提言

以上の理念とコンセプトの下、外国語学部では養成すべき明確な人材像と教育内容、そして教員の研究活動の方向性を意識化し、次のような理念と目標を定めた。

【「共生」という理念】外国語学部設置時からの教育・研究の二つの柱、つまり、高度な外国語運用能力の養成と対象諸地域に関する学際的な知見の習得の二側面を受け継ぎつつ、新たに大学全体の理念として設定された「共生」という理念によって、新たな愛知県立大学の外国語学部の役割を明確化する。

【外国語学部の目標】高度で実用的な外国語の運用能力の習得と、それを駆使した外国諸地域や国際社会の研究を通して、異文化に対する高度な知識と深い理解力を養い、あわせて自らの文化に関する健全な知見を身に付けることを目標とする。「グローバルな多文化共生」の実現に向けて、国際社会に活躍の場を見出し、また地域の国際化に貢献しうる人材の育成を目指す。

以下、それぞれの学科ごとに設置の必要性和教育研究上の理念・目的を示す。

#### ◆英米学科

本学科では、激しく変動する現代社会の諸問題に対応する新しい感性、思考力、行動力を有する優れた人材を養成するという理念のもと、世界の人々とのコミュニケーションを可能にする高度な英語運用能力を身につけるとともに、グローバル化する国際社会を牽引する英米を中心とする英語圏の社会、文学・文化ならびに言語について広く、かつ深く研究する。すなわち、英語運用能力の向上と、英語圏に関する学際的な知見の習得、これら二つの目標を相互に関連づけ、高めてゆく教育に本学科の独自性がある。

本学科は、外国語学部の英米学科と文学部の英文学科の統合によって形成されるが、この統合によって、さらにパワーアップした内容の新・英米学科が誕生する。その積極的な意義は、次の点である。(1) 専門分野については、文学・語学に重点を置く英文学科を統合することにより、英語圏の言語、文化関連の科目に学際的な広がりや専門の深まりが増すことになる。また、主として語学・文学の教員が担当する英語教育についても、教員間のさらなる連携が可能となり、効果的な学生指導等が期待できる。研究面においても、研究領域の近い教員がそれぞれの違いを生かしつつ、協力して多彩なプロジェクトを組むことが容易になる。

(2) 全学の英語教育への効果として、いままで二つの学部にも所属するそれぞれの学科が分

担して行っていた英語教育を一元化することにより、組織化された英語教育を効果的に実施することができる。これまで、双方で蓄積した問題点や成果を検討し、カリキュラムの充実と教育法の改善を図ってゆく。なお、外国語学部には英語を専攻言語とする国際関係学科が新設されるが、全学の英語教育の実施・運営には両学科が連携してあたることになる。(3) 地域貢献、国際貢献においての効果としては、ますます必要性が高まる英語教育に寄与するとともに、地域の身近な問題にもつながる英語圏の社会、文化についての先端的な情報や議論を、多彩な教授陣によって柔軟な形で提供する。これにより、学生に対してはもちろん、県民をはじめとする社会人の知識向上や教員のリカレント教育等に寄与し、地域社会における多文化共生の理念の浸透と実践に貢献することを目指す。

#### ◆ヨーロッパ学科

1993年のEU（ヨーロッパ連合）の発足以来、経済・通貨同盟の設立、共通外交・安全保障政策の実施、司法・内務領域での協力が法的に保障され、それとともにヨーロッパ中央銀行の設立や単一通貨の導入が決められた。これによって、ヨーロッパ連合加盟各国の市民にはヨーロッパ市民権が付与され、彼らは領域内の国々で生活し、働き、学ぶことが可能となり、国境管理も緩和された。政治・経済の分野での統合の流れのみならず、ヨーロッパ中の大学間の学生交流が一層盛んになり、アカデミックな場面での文化的交流を促進することとなった。したがって、フランスやスペイン、さらにはドイツの経済や政治、そして文化活動や文学、思想といった分野での研究も、一つの統一的ヨーロッパでの動きとして見る必要がでてきた。ヨーロッパにはイギリスが入るが、イギリスに関する教育研究は、本学部では「英米学科」という枠の中で実施されてきている。英米学科では、本来はヨーロッパ研究の一翼を担うべきイギリス研究と、アメリカ合衆国を中心としたアメリカ研究とが緊密な連関を以て教育され、研究されている。

本学科は、これまで愛知県立大学外国語学部内にあった三つの学科、すなわちフランス学科、スペイン学科、ドイツ学科を上記のような視点によって「ヨーロッパ」という概念の下に統合し、一つの学科を構成するものである。このことによって、外国語学部にある他の学科、すなわちイギリス、アメリカ合衆国等の英語圏を教育・研究の対象とする英米学科や、アジアの中国語圏を教育・研究の対象とする中国学科とも密接な連携を保ちつつ、全体的な世界像の下で外国語学部の教育・研究がより充実して遂行されることとなる。

本学科は、従来から教育や研究面で様々な成果を上げてきた伝統を生かし、フランス語圏専攻、スペイン語圏専攻、ドイツ語圏専攻という三つの専攻を置くものである。以下では、各専攻の理念と目的を述べる。

##### ・フランス語圏専攻

フランスは、言うまでもなく文学や芸術、思想などの面でヨーロッパ文化の中核としての役割を果たしてきた。また、政治的にはフランス革命期の人権宣言が近代ヨーロッパ市民社会の基本原則となったことからわかるように、常に世界をリードしてきた。また、第二次世界大戦以降のヨーロッパの政治や経済、文化、芸術等の分野でも、アメリカ合衆国から距離をとり、その影響からは独立性を保とうとし、ヨーロッパの理念の具現者として振る舞ってきた。EUの発足に際しても、ドイツと並んでその強力な推進者の役割を果たしてきた。その意味では、「ヨーロッパ学」の中心的対象地域となるのがフランスと言ってよい。

本専攻では、1・2年次での少人数で集中的なフランス語の訓練を通じて、実践的で高度なフランス語の運用能力を養うとともに、そのような語学力を駆使して、ヨーロッパ全体の事象やフランスに関する様々な学問領域の研究をする。

#### ・スペイン語圏専攻

本専攻は、ヨーロッパに位置するスペインの文化や政治、経済等の教育・研究のみならず、ラテンアメリカ世界のスペイン語圏諸国をも教育・研究の対象としている点に特色がある。

スペインは現在、EU内にあつて、比較的高い経済成長を続けており、近年ではフランスに次いで、外国人観光客数、観光収入ともに世界第2位の観光大国である。近代初頭、スペインはいち早く絶対主義国家となつて、16世紀以降海外に進出し植民地を形成した。現在のようにスペイン語圏が世界中に広がっているのはそこに原因がある。そしてもちろん、その時代の富の蓄積が文芸や芸術の繁栄につながり、そのことによって現在でもスペインは人々を惹きつけている。そのような魅力的な歴史的文化や風土を持つスペインであるが、他方、中央集権化が進んでいるフランスとは対照的に各地方独自の特色が強く残るとともに、その地理的かつ歴史的な理由からヨーロッパ圏外のイスラム文化とも密接に関わっている。このような特色をもつスペインの文化、経済、政治、社会、歴史等の教育・研究はヨーロッパ研究にとって重要・不可欠である。

また、スペイン語を公用語とする国はラテンアメリカにはメキシコ、ペルー、アルゼンチン等の20ヶ国（約4億人弱）にのぼり、そこでの文化や社会・経済等の教育・研究は、今日の世界を対象とする外国研究にとって重要である。例えば、未だ謎の多いアステカ文明やマヤ文明の解明は人類全体の文明史の理解に不可欠であるとともに、近代でもラテンアメリカ世界の文化の研究は人類学的手法や宗教史的手法によるさらなる展開が期待される分野であり、また現代でのラテンアメリカ文学ブームも、学生の興味を喚起するものとなっている。その意味でも、しっかりとしたスペイン語に関する語学力を基礎としたラテンアメリカ研究は、これからますますニーズが増大すると思われる。

本専攻では、1・2年次での少人数で集中的なスペイン語の訓練を通じて、実践的で高度なスペイン語の運用能力を養うとともに、そのような語学力を駆使して、ヨーロッパ全体の事象やスペインに関する様々な学問領域、さらにはスペイン語圏のラテンアメリカに関する様々な学問領域の研究をする。

#### ・ドイツ語圏専攻

ドイツは過去においては、文学や音楽、哲学の分野で我々を魅了してきた。第二次世界大戦後の東西分裂を経て、新たに世界秩序の到来を象徴する再統一を果たし、また、自動車産業に見られる高度に発達した工業と環境問題への先進的取り組みによって、今日ますます注目されてきている。敗戦後のめざましい復興と自動車産業の繁栄という点で、我が国との共通点を持つとともに、環境先進国という面では、我が国の模範ともなりうる国である。また、単一通貨ユーロの流通をコントロールするヨーロッパ中央銀行がフランクフルトに置かれているが、このヨーロッパ中央銀行はドイツ連邦銀行の組織をモデルとして設立された。このようなことから見ても、ドイツはEU経済の中心であることがわかる。

以上の点から見て、ヨーロッパ学科としては、ドイツ、並びにその周辺のドイツ語圏諸国の文化、政治、経済、社会等の教育・研究は欠くことのできないものと考えられる。

本専攻では、1・2年次での少人数で集中的なドイツ語の訓練を通じて、実践的で高度なドイツ語の運用能力を養うとともに、そのような語学力を駆使して、ヨーロッパの全体的事象とドイツ語圏諸国に関する様々な学問領域の研究をする。

#### ◆中国学科

平成10年度に設置された本学部の中国学科では、言語教育としては高度な中国語の運用能力を培うことを基本としながらも、地域研究としては狭い意味での中国（中華人民共和国）にとどまらず、広く漢民族が居住し中国語の使用される地域、即ち広域的な「中国語圏」を対象としてきた。例えば、中国を中心として東アジア全域に広がる華僑・華人社会に関する研究、台湾原住民の言語文化に関する研究、東南アジアの村落社会研究といったテーマを掲げる専任スタッフを擁して、広い視野に立った教育・研究活動を行ってきた。

一方、ますますグローバル化が進む国際社会の中で、改めてアジアにおける日本のポジションを考えてみた場合に、今後は中国語圏のみならず朝鮮半島をも含めたその他の東アジア地域をも教育・研究の対象にしていく必要があることも確かである。この地域における経済的な相互依存性の増大と、サブ・カルチャーを含めた文化次元での交流が爆発的な勢いで進展しているためであり、これは表層上の外交や国際政治レベルにおける各国の思惑の衝突を超えた、今後のアジアを先取りした動きと言える。

そこで本学科では、これまで我々が有していた教育・研究上の資産を十分に活かし、かつ中国語圏以外の東アジア地域をも視野に入れる形で教育・研究を行っていく。なお、本学科では「東アジア」という地域名称を広義で用いる。即ち、狭義としては中国大陸・朝鮮半島及び日本列島を意味する「東アジア」に、インドシナ半島・マレー半島及びインドネシア諸島を包括する「東南アジア」を合わせた概念である。

もちろん、本学科における教育の柱が中国語の高度な運用能力と広域的中国語圏に対する理解力の涵養にあることは言うまでもないが、今後は中国語圏以外の東アジアをも視野に入れて、この地域に対する多角的で構造的な分析能力を養う。この理念に基づいて、今後日本との交流がますます盛んになる中国語圏及びその他の東アジア地域に向き合い、優れた異文化理解能力と国際的視野に立った判断力を発揮することができる人材を育成するのが本学科の目的である。

#### ◆国際関係学科

21世紀は、グローバル化が更に進行する時代である。グローバル化を通じて、当初は、欧米文化による価値の標準化が試みられたが、そのために、世界各地で「文化の衝突」と見られる現象が勃発した。しかし、グローバルな世界においてさまざまな価値と文化を有する人達が平和裡に暮らしていくためには、価値の標準化や一元化ではなく、価値の多様性を前提としたさまざまな「文化の共生」を図る必要がある。したがって、今後、グローバルな世界の直面する諸問題を解決するためには、それぞれについて比較文化的アプローチが不可欠になってくる。

まず、我々は、人、商品、資本及び情報の自由移動、地球環境問題、発展途上地域の貧困の問題、国家の枠組みの相対化にともなう民族問題、地球市民社会時代の到来、テロリズムなどの「グローバル・イシュー」に直面しているが、このような問題群に対し、文化の多様性を前提とした「共生」の理念こそが、解決への道筋を導くものとなろう。こうしたことか

ら、今日的な「グローバル・イシュー」に対し、伝統的な国家間関係を超越するべく、国際法、国際経済、国際政治といった国際関係学の代表的な分野はもちろん、グローバルな問題に対する比較文化的アプローチが、非常に重要となる。国際関係学科は、こうしたダイナミックな世界情勢の変化をふまえ、社会科学系分野のみならず人文科学系分野も加え、幅広い視野からの国際関係の教育研究を目指している。

また、一方で、世界は国家・地域内の「グローバルなローカル・イシュー」にも直面している。人間が社会の中で生きていく以上、「異質な他者」と関わらざるを得ない。他者との違いはほんのわずかな程度から文化背景に根ざした非常に大きなものまで様々なレベルがあるであろう。しかし今日、全く日常的に「予想を超える異質な他者との唐突な遭遇」が「ふつうの市民」に生じうる時代なのである。そうした時代にあって、社会の中で相互に人権を尊重しあい「共生」を実現するためにも同様に、比較文化的視点からの多彩で多様な方法論による学習・研究こそが、新たな関係性を開く鍵となるはずである。ミニマムな個対個の関係にはじまり、国家間あるいはそれ以上の組織間の関係まで、すべては人間同士の関係だからである。

こういった視点から、本学科は、地域または言語によって区分された他学科のカバーしていない、世界的規模で広がりつつある問題であると同時に身近な地域において見られる問題に取り組む多彩な科目を配置し、英語および選択可能な数種類の外国語の教育をベースに、政府間レベルから草の根レベルの活動までをパースペクティブとして、社会の要請に応えるべく国際協力・国際交流に貢献しようとするものである。

## (2) どのような人材を養成するか

### ・問題発見能力を有する人材

本学部では、多様でかつ有機的に組織された教養教育科目である「全学共通科目」と各学部、各学科での専門科目、および外国語学部の学部共通科目を通じて、一人ひとりの学生が、まず高い志と学ぶ意欲を旺盛に持ち、自らの取り組むべき分野や身近な領域の中で何が問題なのか、何を探求すべきであるかを自ら設定できる鋭い問題意識を養う。従来、「問題解決能力」という表現が使用されてきたが、本学部の人材養成の方針としては、この概念では不十分だと考える。そもそも、「問題解決」のプロセス以前に「問題発見」がなければならない。そして、その問題をどのような形でテーゼ化するかが重要である。

これは、様々な事象を「問う」姿勢である。単に教員から与えられたテーマではなく、自ら問うべき事象や事柄を探る能力である。そもそも、初等・中等教育では、特に問題発見能力の養成という側面よりも、基礎的な知識の獲得という側面を重視せざるを得ないのであるが、定型的なノウハウでは生き残れない現在の社会の中で有為な人材として生き抜くには、まず何事にも批判的視点を有し、何を改善すべきなのかという鋭い問題意識を身につける必要がある。それは、今日の大学教育に求められている最大の要求であると考えられる。実際、単に知識を吸収し、従順に与えられた課題をこなすという姿勢ではなく、意欲を持って、より積極的に自らの課題を自らに課していく人材が、今日の社会において強く求められていると考えられる。

### ・「共生」の精神に富み、高度な外国語の運用能力を核とするコミュニケーション能力を有す

## る人材

端的にいえば、本学部で養成すべき人材像としては、様々なチャネルから獲得した知識と独創的で、かつ柔軟な思考力によって、その問題を解決するという能力を有する人材ということになるが、特に外国語学部としては、まず知識の獲得と解決策のプレゼンテーションに際しては、各学生が主に自らの専攻言語を駆使して行うことが求められる。本学部の目的にある「高度な外国語の運用能力」というのは、学問研究において外国語を駆使することができ、その研究成果を外国語で表現し、伝達することができる能力である。

言語は、他者とのコミュニケーションの手段であるといわれるが、「外国語」というのは、その意味では他なる文化の中で生きている人々とのコミュニケーションの手段であり、他者との、あるいは他なる文化の中の他者との「共生」の手段であるにとらえることができる。本学部では、外国語というものは、単に外国の文化・社会の情報収集のための手段にとらえるのではなく、あくまでも人と人との「共生」のための媒介、つまりメディアとしてとらえるべきであると考え、まずは他なる文化との交わりに対する積極的姿勢を一人ひとりの学生の心の内に醸成することがまず大切であると考えている。それは、人材像としては、国際社会において外国語を駆使して活躍する人材のみならず、ますます国際化しつつある日本国内においても、他なる文化や社会に自らのルーツを持つ人々とのコミュニケーションと共生にまつわる能力を有する人材ということになる。それには、本学内での外国人教員の授業や海外からの留学生との交流、そして公的な留学や私的な留学などを通じてなされる。また、「コミュニケーション能力」の養成ということで高等教育に期待されるものは、あくまでも学術的な内容がテーマとなっている場面での「コミュニケーション」の能力でなければならない。それは、単なる日常生活の中での関わりという意味でのコミュニケーションではない。しっかりした目的が設定され、そこでの議論や討議も一定の合理性と目的性に貫かれた場面でのコミュニケーションである。というのも、そのような場面での言語コミュニケーション能力こそが、卒業後、私的企業や公的機関で働く際に大いに役立つ能力であるからである。それは、授業においても、参加学生同士がチームを組んで、討議しながら解決を目指す形式や、研究成果のプレゼンテーション、そしてそのプレゼンテーションに対する討論などといった、様々な工夫によって養成される。

以下、それぞれの学科ごとに養成する人材像を記す。

### ◆英米学科

本学科で育成されるのは、英語圏に関する専門的知識、論理的・批判的思考力、情報収集力、英語での発信能力を備え、急速に変貌する現代社会に対応でき、これからの国際社会でグローバルに活躍する人材である。もちろん、その人材には地域からの発信、地域へのフィードバックも期待できるはずである。地域経済の発展に寄与する、国際規模の視野を持ち、英語コミュニケーション能力を持った社会人こそが、本学科の卒業生の将来像である。卒業生は大きく分けて三つの分野でそれぞれに活躍することになるだろう。

①社会科学系の分野を選択し、政治・外交等に関わる職業を通して国際事業と地域事業を結ぶ。

②文学・文化の分野を選択し、マスコミや出版、翻訳、通訳、多文化共生を育むための職業などに従事し、国際交流に寄与する。

③英語学または英語教育の分野を選択し、教員等、教育関連の職業に従事し、国際理解力

を持った後輩を育て、また生涯教育関係・地域の多文化共生事業などの仕事にも取り組む。

#### ◆ヨーロッパ学科

本学科で育成されるのは、フランス、スペイン、ドイツの各言語圏に関する専門的知識、論理的・批判的思考力、情報収集力、各外国語での発信能力を備え、急速に変貌する現代社会に対応でき、これからの国際社会でグローバルに活躍する人材である。もちろん、その人材には地域からの発信、地域へのフィードバックも期待できるはずである。地域経済の発展に寄与する、国際規模の視野を持ち、高度な外国語の運用能力を核とするコミュニケーション能力を持った社会人こそが、本学科の卒業生の将来像である。彼らは大きく分けて三つの分野でそれぞれに活躍することになるだろう。

①社会科学系の分野を選択し、政治・外交等に関わる職業を通して国際事業と地域事業を結ぶ。

②文学・文化の分野を選択し、マスコミや出版、翻訳、通訳、多文化共生を育むための職業などに従事し、国際交流に寄与する。

③語学または語学教育の分野を選択し、教員等、教育関連の職業に従事し、国際理解力を持った後輩を育て、また生涯教育関係・地域の多文化共生事業などの仕事にも取り組む。

#### ◆中国学科

本学科が養成するのは、中国語圏に対する深い理解を備え、かつその他の東アジア地域に対しても一定の知識を持つ人材であり、論理的思考力・情報収集力及び情報発信能力を備え、これからの国際社会でグローバルに活躍できる人材である。その人材には地域からの発信、地域へのフィードバックも期待できるはずである。地域経済の発展に寄与する国際規模の視野を持ち、中国語のコミュニケーション能力を持った社会人こそが、本学科の養成する人材像である。彼らは大きく分けて次の三つの分野で活躍することになるだろう。

①社会科学系の分野を選択し、政治・外交等に関わる職業を通して国際事業と地域事業を結ぶ。

②文学・文化の分野を選択し、マスコミや出版、翻訳、通訳、多文化共生を育むための職業などに従事し、国際交流に寄与する。

③語学または語学教育の分野を選択し、教員等、教育関連の職業に従事し、国際理解力を持った後輩を育て、また生涯教育関係・地域の多文化共生事業などの仕事にも取り組む。

#### ◆国際関係学科

本学科が養成するのは、グローバル化が進む中で生じているさまざまな事態を、国家または言語によって区分された一定の地域の問題としてとらえるのではなく、国際関係に関する幅広い知識や、英語などの外国語をコミュニケーションツールとして駆使し、異文化の他者とも新しい関係性を常に再構築していくような人材である。論理的思考力・情報収集力及び情報発信能力を携えて、世界規模の国際的課題から日本国内の地域社会における国際的課題に至るまで、さまざまな職場において積極的に課題解決へと関与していく。それが本学科の養成する人材像である。具体的には、大きく分けて次の三つの分野で活躍することになるだろう。

①国際関係学を深く学び、広い知見をもって政府機関、国際機関、ビジネス、ジャーナリ



ズムなどで活躍する。

②国際社会の問題をふまえつつ、人文科学系の知識と語学力を活かし、一般企業や旅行業などに従事する。

③人文科学系の学問における人間観察の視座を持ち、社会における異文化接触の場で生じる諸問題に、高度なコミュニケーション能力と課題解決能力をもって対応する、自治体やNPOなどにおいて活躍する。

## 2 学部、学科等の特色

1 「設置の趣旨及び必要性」で記述したような外国語学部の理念の下、従来本学の文学部に置かれていた英文学科を英米学科に統合する形で新たな「英米学科」を構成し、従来本学部内に独立の学科として存立していたフランス学科、スペイン学科、ドイツ学科を、それぞれフランス語圏専攻、スペイン語圏専攻、ドイツ語圏専攻として包含する「ヨーロッパ学科」を新たに設置する。そして、中国学科では中国語圏を中心としながらも、その他の東アジア地域をも視野に入れた教育・研究を行うことにするとともに、従来学部共通の科目として設置していた国際関係学系の科目群とアジアや日本の言語研究等の科目を統合し、新たに「国際関係学科」を設置するものである。

本学部は、先の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で提言されている〈高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化〉の機能区分では、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人、さらに国際交流などの⑦社会貢献機能、といった機能を担う。本学部の養成すべき人材像からも、各外国語に関する高度な運用能力を十分に身につけ、それを基礎とし、外国諸地域や国際社会に関する様々な学問分野の知識を身につけ、高度な専門性を要求される職種領域で活躍する人材の養成を特色とする。また、学部としては、「外国研究」という本分を生かし、教員の人的交流、学術的交流、そして留学生の交換等を通じて、我が国の国際化に貢献するとともに、国内の地域社会で進行しつつあるグローバル化にまつわる諸問題の解決に資するべく地域社会に対して、地域連携活動を展開することを、もう一方の特色とする。

以下、それぞれの学科ごとに特色を記す。

### ◆英米学科

新英米学科は、本学文学部に設置されていた英文学科と統合することにより、これまで以上に充実したカリキュラムの再編と教育体制の強化を図った。

従来から英米学科では、英米を中心とする英語圏の社会、文学・文化、言語に関する幅広い知見の獲得と、高度な英語運用能力の習得を二つの柱とし、それらを相互に高める教育を実施してきた。この基本方針は、新英米学科でも引き続き、維持される。

英語運用能力の向上に関しては、既に一定程度の習熟度に達した英語が専攻言語であり、1年次から英語のみを使用する少人数クラスで授業を行う。工夫された多彩な教授法を駆使し、実践に強い、発信型のコミュニケーション能力を培ってゆく。また、基本技能別に系統立てられ、目標を明確化された英語科目は、学年を追って段階的に設置し、学生の英語力を着実に向上させる。今回、新たに英語学、英語教育学、英語圏の文学・文化を専門分野とする英文学科の教員が加わることにより、これらの英語科目の種類を増やし、内容を充実させ

ることが可能となった。また、これを機に、使用目的や将来目指す職種に対応した英語の実践力を高める科目群を新たに設置し、学生のニーズや適性に応じた英語学習を可能にした。

高度な英語能力の育成と同時に、社会科学系の分野、文学・文化、および英語学・英語教育の分野における英語圏の国々に関する知見を身につけることが学科の目標であるが、これは、概論、各論、講読、演習などの授業からなる各分野の専門科目を通して養成される。学生は、学際的な基礎理解から始め、やがて自分の関心に応じた分野を選択し、その分野の研究を深めてゆく。この過程は、上述の英語科目で段階的に培われる英語力の向上と対応しており、学生は、四年間の学習の集大成として、英語による卒業論文を作成する。こうして、高度な英語のコミュニケーション能力の養成と専門分野の研究を相互に関連づけて進めることにより、学生は両面の知的水準を引き上げてゆくことができる。

本学科では、以上のように、少人数クラスでの独自の教育方法によって高度な英語運用能力を獲得すると同時に、英語圏の社会、文学・文化ならびに言語に対する深い知識、国際的視野、多様な文化に対する理解力を身につけさせる。これにより、急速に変貌する現代社会に対応できる柔軟な思考力と行動力を培い、国際社会で活躍する人材を養成することを目標に掲げる。

本学科の分野選択は固定されず、学際的な履修が可能であるが、大きく分けて次の三つの領域が想定できる。それは、①英米社会研究、②英米文学・文化研究、③英語学・英語教育学研究であり、学生はおおよそ2年次から、この三つの領域を意識しつつ、自分の進む方向を決めていくことになる。

①英米社会研究では、高度な英語運用能力を土台にして、イギリス、アメリカ合衆国を中心とした英語圏の社会に関する知識を身につけ、国際社会に対する理解を深めることを目的とする。歴史、政治、経済、外交といった社会科学分野に関する英米研究が本専攻の守備範囲となる。

②英米文学・文化研究では、同じく高度な英語運用能力を土台にして、主に英米の文学・文化に対する理解を深め、グローバルな視野を育成することを目的とする。英米それぞれの文学・文化史、小説、詩、演劇や映画、批評理論、また英米以外の英語圏の文学、日英米の文化交流、といった文学・文化に関する英米研究が守備範囲となる。

③英語学・英語教育学研究では、同じく高度な英語運用能力を土台にして、英語という言語そのものを研究対象とし、またその教育について研究することを目的とする。英語の歴史、形態、意味・用法、音韻等を扱う英語学、第二言語習得論、英語教授法などを扱う英語教育学に関する研究が守備範囲である。

#### ◆ヨーロッパ学科

##### ・フランス語圏専攻

本専攻は、まず、少人数クラスでの独自の教育方法によって学生に十分なフランス語運用能力を習得させ、並行してフランス語圏の社会、政治、経済、歴史、文学、文化ならびに言語に対する深い専門的知識、多様な文化に対する理解力、問題発見能力を身につけさせるところに特色がある。さらにはヨーロッパの中におけるフランス語圏の位置づけ、またフランス語圏と日本・世界との関わりといった国際的視野に立ってフランス語圏についての理解を涵養する点にも特色がある。急速に変貌し、グローバル化する現代社会にあって、英語習得の必要性は広く認められるところであるが、英語以外の言語を学び、その言語が使われる社

会についての理解を深めることもまた依然として重要である。EUにおいては言語文化の多様性を尊重する「多言語主義」が標榜され、英語を含めて23言語がEUの公用語とされているが、中でもフランス語は重要な言語である。フランス語は、ドイツとともにEU統合を牽引してきたフランスのみならず、EU諸機関が集中するベルギーやルクセンブルクでも公用語としての役割を果たしている。世界的に見れば、フランスと歴史的に関わりの深い北部・西部アフリカ諸国など約30カ国において、2億人近くの人々に使用されている言語である。このようなフランス語圏の社会的・文化的影響力を意識した情報収集力・発信能力を備え、専門的知識や論理的・批判的思考を伴った行動力で、国際社会に活躍する人材を養成するのが本専攻のねらいである。

本専攻には、特にコースや分野を設けず、学際的な履修を可能とするが、大きく分けて三つの領域が想定できる。それは、①フランス語圏社会研究、②フランス語圏文学・文化研究、③フランス語学であり、学生はおおよそ2年次から、この三つの分野のうち一つを選択して専門性を高めていくことができる。

①フランス語圏社会研究では、フランス語運用能力を土台にして、フランス共和国を中心としたフランス語圏の地域社会・制度理論等に関する知識を身につけ、西欧社会に対する理解を深めつつ国際的見地を養うことを目的とする。歴史、政治、法律、経済といった人文社会学面での研究がこの分野の守備範囲となる。

②フランス語圏文学・文化研究では、フランス語で書かれた文学や、舞台や映像等表象芸術活動に対する深い理解を追求し、創造活動に対する豊かな視野、国際的な価値観を育成することを目的とする。十分なフランス語運用能力を前提とした文献研究、視聴覚資料研究を身につけ、作品解釈、時代分析、文化批評、演劇・映画論といった領域をその守備範囲とする。

③フランス語学研究では、同じく高度なフランス語運用能力を土台にして、とくに確実な文法的知識の上に、言語そのものに対する研究態度を養成する。歴史の変遷といった通時的な研究、音韻・形態・統語・意味・語用論といった共時的な研究が守備範囲である。

#### ・スペイン語圏専攻

本専攻は、まず、少人数クラスでの独自の教育方法によって学生に十分なスペイン語運用能力を習得させるとともに、スペイン語圏の社会、政治、経済、歴史、文学、文化ならびに言語に対する深い専門知識、多様な文化に対する理解力、論理的思考能力、批判的思考能力、問題発見能力を身につけた人材を涵養するところに特色がある。また、スペインをヨーロッパのなかで考察するとともに、スペインと他のヨーロッパ諸地域との比較、スペインと中南米諸地域との比較、中南米諸地域間の比較、日本とスペイン語圏との比較の視点を養う点にも特色がある。そして、国際社会で活躍し、また地域の国際化に貢献しうる人材の養成を目指している。

本専攻には、コースや分野を特に設けないが、大きく分けて三つの領域が想定できる。それは、①スペイン語圏社会研究、②スペイン語圏文学・文化研究、③スペイン語学研究であり、学生はおおよそ2年次から、この三つの分野のうち、自分の進む方向を決めていくことになる。

①スペイン語圏社会研究では、スペイン語運用能力を土台にして、日本や他のヨーロッパ諸地域との比較の観点から、スペインおよびラテンアメリカ諸地域の社会と文化に関する知

識と理解を深めるとともに、高い問題発見能力と国際的見地を養うことを目的とする。歴史学、政治学、経済学、地理学、宗教学、考古学といった人文社会科学での研究が本モデルの守備範囲となり、それぞれの学問分野のディシプリンも確実に習得することを目指す。

②スペイン語圏文学・文化研究では、スペイン、ラテンアメリカ、アメリカ合衆国などでスペイン語で書かれた文学等表象芸術活動に対する深い理解を追求し、創造活動に対する豊かな視野、国際的な価値観を育成することを目的とする。十分なスペイン語運用能力を前提とした文献研究等を身につけ、スペイン語圏の様々な時代の文学、芸術、文化批評といった領域をその守備範囲とする。

③スペイン語学研究では、同じく高度なスペイン語運用能力を土台にして、とくに確実な文法的知識の上に、言語そのものに対する研究態度を養成する。歴史の変遷といった通時的な研究、音韻・形態・統語・意味・語用論といった共時的な研究、さらには広大なスペイン語圏諸地域の諸方言の比較研究、スペイン語（カスティーリャ語）とカタルーニャ語などの比較研究、スペイン語圏諸地域の社会言語学的研究などが守備範囲である。

#### ・ドイツ語圏専攻

本専攻は、まず、少人数クラスでの独自の教育方法によって学生に十分なドイツ語運用能力を習得させ、並行してドイツ語圏の社会、政治、法律、経済、歴史、文学、文化ならびに言語に対する概観を得、その基礎の上に専門的知識を積み上げ、さらにはヨーロッパの中のドイツの役割、北欧圏などとの交流、また日本や世界との関わりという国際的視野ならびに多様な文化に対する理解力を身につけさせるところに特色がある。急速に変貌し、グローバル化する現代社会にあって、非英語圏の社会的・文化的影響力を意識した情報収集力・発信能力を備え、専門的知識や論理的・批判的思考を伴った行動力で、国際社会に活躍する人材を養成するのがねらいである。

本専攻の分野選択は固定されず、学際的な履修が可能であるとはいえ、大きく分けて三つの領域が想定できる。それは、①ドイツ語圏社会研究、②ドイツ文学・文化研究、③ドイツ語（ゲルマン諸語）研究であり、学生はおおよそ2年次から、この三つの分野のうち一つを選択して専門性を高めていくことができる。

①ドイツ語圏地域研究では、ドイツ語運用能力を土台にして、ドイツ連邦共和国を中心としたドイツ語圏の地域社会・制度理論等に関する知識を身につけ、西欧社会に対する理解を深めつつ国際的見地を養うことを目的とする。歴史、政治、法律、経済といった人文社会学面での研究が本専攻の守備範囲となる。

②ドイツ文学・文化研究では、ドイツ連邦共和国、オーストリア、スイスを中心としたドイツ語で書かれた文学や、舞台や映像等表象芸術活動に対する深い理解を追求し、創造活動に対する豊かな視野、国際的な価値観を育成することを目的とする。十分なドイツ語運用能力を前提とした文献研究、視聴覚資料研究を身につけ、作品解釈、時代分析、文化批評、演劇・映画論といった領域をその守備範囲とする。

③ドイツ語（ゲルマン諸語）研究では、同じく高度なドイツ語運用能力を土台にして、とくに確実な文法的知識の上に、言語そのものに対する研究態度を養成する。歴史の変遷といった通時的な研究、音韻・形態・統語・意味・語用論といった共時的な研究、さらには北欧諸語等との関係研究が守備範囲である。

#### ◆中国学科

本学科の特色は以下の三点に集約される。第一には、まずもって高度な中国語運用能力を養成するため、1・2年次の基礎的言語教育から3・4年次の発展的言語教育まで、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の四技能をバランスよく身につけるための徹底した指導を行う点である。第二には、あくまでも中国語圏に対する理解を中心としつつも、それ以外の東アジア地域にも常に眼を配り、これらの地域に対する多角的・構造的な理解を目指す点である。そして第三には、特定の分野にスペシャライズされた専門家ではなく、中国語圏に対する総合的な知識と判断力を持ったジェネラリストを養成する点である。

本学科では、中国語圏及びその他の東アジア地域をめぐる研究分野を①中国語・言語民族、②文学・文化、③歴史・社会、④政治・経済の四分野に大別する。学生はおおよそ2年次からこの四つの領域を意識しつつ、自分の進む方向を決めていくことになる。

①中国語・言語民族研究では、中国語そのもの、及び東アジア諸地域における言語とそれを使用する民族を教育・研究の対象とする。現代中国語文法論、中国語歴史文法論、東アジア諸民族の文字・音韻論及び東アジアの少数民族言語などが主な守備範囲である。

②文学・文化研究では、中国語圏及びその他の東アジア地域の文学と文化を教育・研究の対象とする。中国近現代文学、中国近代文芸理論史、東アジア華僑・華人社会論及び東アジア伝統文化論などが主な守備範囲である。

③歴史・社会研究では、中国語圏及びその他の東アジア地域の歴史と社会を教育・研究の対象とする。中国近現代史、近代日中関係史、東アジア地域社会論、東アジア村落変容論などが主な守備範囲である。

④政治・経済研究では、中国語圏の政治と経済を教育・研究の対象とする。現代中国政治論、中国対外関係論、現代中国経済論、中国農業経済論などが主な守備範囲である。

#### ◆国際関係学科

従来の本学部の教育・研究体制の中で、学部全体にとって必要な科目として設置されていた国際関係系の科目を中心とした科目群とそれらを担当してきた教員を核とし、国際関係学科を設立する。経済や政治、さらには文化の領域でのグローバル化が叫ばれて久しいが、旧愛知県立大学外国語学部での教育・研究の理念の中には、それぞれの国と地域との国際的相互関係に関わる研究の重視や、当該地域と日本との関係性を考察するという観点から文学、言語、比較文化などの研究が既に組み込まれていた。その意味では、今回、新たに外国語学部に「国際関係学科」を増設するということは、本質的な必然性があると言えよう。ただ、外国語学部の中に置かれる「国際関係学科」は、法学部等の社会科学系学部の中に設置される国際関係学科とは、理念や養成すべき人材像が異なる。

外国語学部である以上、まず「外国語」の修得が重要視されることはいうまでもない。本学科では、国際的な場面で広く使用できる英語を専攻言語とするほか、さらにスペイン語、中国語、ポルトガル語など全学共通科目の外国語科目や、朝鮮語、インドネシア語などの「諸地域言語」のなかで、1種類から4種類程度まで自由度が高い選択方式で、10単位の外国語の科目を卒業要件の必修として課している。

また、科目構成としては、大まかに二つの分野が想定できる。国際法や国際経済学、国際政治学といったいわゆる「国際関係」に関連する社会科学系の科目群と、文学・批評や文化人類学、多文化共生論、民族言語研究といった「国際文化」に関連する多彩な人文科学系の

科目群であり、異文化理解や多文化共生といった本学の理念を直接に反映するものである。かように異文化理解や多文化共生の理念のもとで、国際関係に関する社会科学系の科目群と国際文化に関する人文科学系の科目群が配置されているのも、外国語学部としての特徴である。

社会科学系学部の国際関係学科であれば、育成する人材像はそれぞれの分野の専門的知識を活かした実務家や企業人となるが、本学科は、実践的語学力、社会科学系の知識、人文科学系の知識の三者が総合的に学べるカリキュラムであり、確実な語学力に基づくコミュニケーション力を基軸とし、さまざまな分野において国際的な場面で即戦力として活躍できる可能性を持った人材を育成できる。世界の中で問題になっている諸事情に対して鋭い問題意識をもち、場合によってはNGOに参加し、積極的に海外に出て行って活躍することへとつながるのである。また、単に世界に羽ばたくというありかただけではなく、自分が生活を営んでいる身近な市町村の中で進行しつつある「グローバル化」に対して積極的に関わり、さまざまな国や地域から移動してきた、宗教的、民族的背景も異なるさまざまな人々に対して、深い配慮を持って接することができ、かつ彼らと協調しつつ、日本国内のそれぞれの地域において「成熟した共生社会」の実現に向けて活躍できる人材、例えば各地方自治体の職員として「多文化共生推進プログラム」（平成18年総務省のプログラム）の遂行に携わる、多文化共生に関わる独自のNPOを組織する、あるいはその一員として活躍できる人材も、本学科が養成する人材像の一例として考えられる。

### 3 学部、学科の名称及び学位の名称

外国語学部は、英米学科、ヨーロッパ学科、中国学科、国際関係学科から成り、どの学科とも専攻言語の高度なコミュニケーション能力の養成と各言語圏、国際社会全体について、様々な学問分野での教育・研究を目指すものであり、その名称はそのような教育・研究上の実態を明確に表示するものである。英語名称は下記の通り。

外国語学部：School of Foreign Studies

#### ◆英米学科

本学科では、大学設置の趣旨及び必要性、教育課程等に基づき、高度の英語コミュニケーション能力と、英語圏の社会、文学・文化ならびに言語に対する深い知識、国際的視野、多様な文化に対する理解力を身につけた人材を育成することを目的としている。

こうした学科の趣旨及び国際的な通用性、教育研究上の目的等に鑑み、学科の名称は「英米学科」（英語名称：Department of British and American Studies）とし、学位については「学士（外国研究）」（英語名称：Bachelor of Foreign Studies）とする。

#### ◆ヨーロッパ学科

本学科では、大学設置の趣旨及び必要性、教育課程等に基づき、ヨーロッパ圏内の各専攻の言語（フランス語、スペイン語、ドイツ語）の高度なコミュニケーション能力と、各言語圏の社会、政治、経済、法律、歴史、文学、文化ならびに言語に対する深い知識、国際的視野、多様な文化に対する理解力を身につけた人材を育成することを目的としている。

こうした学科の趣旨及び国際的な通用性、教育研究上の目的等に鑑み、学科の名称は「ヨ

ヨーロッパ学科」(英語名称: Department of European Studies)とし、学位については「学士(外国研究)」(英語名称: Bachelor of Foreign Studies)とする。

各専攻の名称は以下の通りである。

「フランス語圏専攻」(英語名称: Division of French Studies)

「スペイン語圏専攻」(英語名称: Division of Spanish and Latin American Studies)

「ドイツ語圏専攻」(英語名称: Division of German Studies)

#### ◆中国学科

本学科では、設置の趣旨及び必要性、教育課程等に基づき、高度な中国語コミュニケーション能力と、中国語圏に対する多角的で構造的な分析能力を養い、それによって優れた異文化理解力と国際的視野に立った判断力を発揮できる人材を育成することを目的としている。

こうした趣旨及び国際的な通用性、教育研究上の目的等に鑑み、学科の名称は「中国学科」(英語名称: Department of Chinese Studies)とし、学位については「学士(外国研究)」(英語名称: Bachelor of Foreign Studies)とする。

#### ◆国際関係学科

本学科では、設置の趣旨及び必要性、教育課程等に基づき、「共通語(リンガ・フランカ)」としての高度な英語能力と、世界の諸地域間の関係および日本と世界の諸地域との関係に対する立体的な分析能力を養い、それによって優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮できる人材を育成することを目的としている。

こうした趣旨及び国際的な通用性、教育研究上の目的等に鑑み、学科の名称は「国際関係学科」(英語名称: Department of International and Cultural Studies)とし、学位については「学士(国際関係学)」(英語名称: Bachelor of International and Cultural Studies)とする。

## 4 教育課程の編成の考え方及び特色

本学部の教育課程は、全学共通科目と専門教育課程の二つの柱によって成り立っている。そのうち全学共通科目の履修については30単位を卒業必修単位と定め、以下の内訳で履修するものとする。まず、「教養科目」の四つの下位区分のうち「教養基礎」からは4単位、「グローバルな多文化共生」、「社会における人間」、「科学技術と人間」の三区分別からはそれぞれ2単位ずつを必修単位とする。「健康・スポーツ」、「情報科目」についてはそれぞれ2単位を必修単位とする。さらに、外国語学部の特色は「外国語科目」の履修の仕方に表れている。英米学科、ヨーロッパ学科、中国学科では専攻言語以外の言語を1科目8単位履修することを必修とし、それを越えて履修した場合、あるいは2科目を履修した場合は専門教育課程の卒業選択必修単位に算入できるものとする。これによって専攻言語以外にも、もう一つの外国語をいわば「副専攻外国語」として十分に修得できる体制となっている。また国際関係学科は、専攻言語以外の言語4単位を含む8単位を必修としているため、さらに多様な言語を学ぶことが可能となっている。

本学部の専門教育課程は、本学部の理念にある〈高度で実用的な外国語の運用能力の習得〉を実現すべく、まずは「専攻言語科目」群が設置され、充実した外国語教育が実施される。そして〈それを駆使した外国諸地域や国際社会の研究〉を行うが、まず「専攻言語科目」の

履修とともに1年次と2年次においては大学での研究方法、つまり調査やプレゼンテーションの仕方といった基礎的スキルを身につける「基礎演習」科目や各専門領域の学問分野の入門講義からなる「専門基礎科目」群を配置して、つぎの段階のより高次の科目である「専門発展科目」群の履修が円滑に行われるように工夫されている。そして、その「専門発展科目」群であるが、それぞれの学科では対象諸地域に実情にあった様々なテーマの研究各論と研究演習を設置し、充実したカリキュラムを構成し学生のニーズ、関心に応える工夫をしている。また、今日の外国研究自体がより多面的で学際的なアプローチを必要としているという認識に立ち、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、「専門発展科目」群の三つの段階において、学部横断的な学部共通の科目を設置した。「専攻言語科目」群では、古典語や比較的限定された地域で使用される外国語の科目が置かれている。また、「専門基礎科目」群では言語、文学・文化、政治・経済、歴史・社会の各研究分野での研究入門が学部横断的な科目として履修される。そして、「専門発展科目」群では、経済学、言語学、音声学、思想史といった外国語学部の専門教育の基盤的分野の共通科目等が開講される。

そして最終的には、4年間で受けてきた教育の総決算としてそれぞれの分野で卒業論文が作成される。卒業論文の指導教員は原則として3・4年次の研究演習担当教員と一致するものとし、継続性と段階性を重視した指導がなされる。

#### ◆英米学科

本学科の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、「専門発展科目」群からなっている。これらはいずれも段階履修となっており、1年次から4年次までバランスよく配分され、語学力のレベルと専門科目の学習内容が連動するように構成されている。本学科の特色は、英語の四技能（「読む、書く、聞く、話す」）をバランスよく身につけるとともに、専門領域にも関連する知識や議論の基礎を学ぶために、1年次より3年次まで、Communicative English I・II・III という、専攻言語科目がおかれている点である。この授業は、少人数クラスで、教員も学生もすべて英語を使用する。英語によるコミュニケーションしか許されない環境のもと、宿題も多く課されるが、それらへのきめ細かいフィードバックにより、学生は厳しく訓練される。授業の材料は多様性に富み、英語力のみならず、英語圏の言語文化やそれらに繋がる我々の諸問題について、深い理解力と批判的思考力を身につけることを目指している。

Communicative English Iに加え、専攻言語科目としては、1年次では English Phonetics と Grammar & Basic Writing が必修となっており、発音や文法など英語技能の基礎を固める。同時に専門基礎科目も開始され、研究入門と位置づけられる基礎演習 I と研究概論が置かれている。基礎演習 I は、大学独自の学習方法、とりわけ英米学科の演習形式の授業の基礎、すなわちリサーチの方法やレポート作成技術を学ぶ必修科目である。一方、研究概論は、イギリスの社会、アメリカの社会、イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学の五分野についての基礎的な知識と研究方法を学ぶ。どの領域に進もうと、英米学科の学生として必要となる基礎力を獲得するため、すべての分野を必修とする。

2年次は、各自が自分の進む方向性を決めていく段階である。専攻基礎科目として、基礎演習 II が始まり、研究概論の五分野に英語教育を含めた六分野の中から一つを選択し、専門性の高い「研究演習」の基礎を学ぶことになる。研究講読 I は、選んだ専門分野に関する基礎文献の読み方を学ぶ科目で、基礎演習 II と同じ専門を選ぶことが望ましい。研究各論のう



ち、2年次から受講できる「イギリスの歴史」、「アメリカの歴史」、「イギリスの文学・文化史」、「アメリカの文学・文化史」、「英語史」は、専門分野を通史的に概観する講義科目であり、3年次以降に開講されるより専門性の高い研究各論を学ぶための基礎となる。こうして専門基礎科目の履修と並行して、専攻言語科目としては、Communicative English IIが、さらに踏み込んだ高度な内容となり、また英語による議論と口頭発表のための Research & Discussion I と、英語で卒業論文を書くための基礎を固めるライティングの科目、Academic English I が始まる。

3・4年次は、段階履修の理念に沿って、さらに高度な内容を扱う専門発展科目として、原書の読解力を高めるための研究講読II、専門内容をより深く掘り下げて講義する研究各論が開講される。社会科学系の分野を扱う研究各論としては、「イギリスの政治・外交」、「イギリスの社会・思想」、「アメリカの政治・外交」、「アメリカの社会・経済」が置かれる。文学・文化については、多様なジャンルを反映し、「イギリスの小説」、「イギリスの詩」、「アメリカの小説」、「アメリカの詩」、「イギリスの演劇・美術」、「アメリカの映画・批評」を置く。英語学については、研究のアプローチ別に「英語統語論」、「英語意味論・語用論」、「英語音韻論」を置き、英語教育については、「英語教育学」、「第二言語習得論」を置く。また英米以外の英語圏や英米と日本の関係を論じる「英語圏の文学・文化」、「日英米の文化交流」、「日英語の比較」を展開させ、さらにそれぞれの分野を補う「特殊講義」を置く。学生は、これらの研究各論から、必要に応じて複数科目の選択・履修が可能である。3・4年次の研究演習は、2年続けて同じ教員のクラスを取ることを原則とし、講読や各論で得た知識を応用し、卒業論文につなげる本格的な演習を行う科目である。専攻言語科目の Communicative English III は自由選択であるが、Academic Writing II、Research & Discussion II は必修で、それぞれ I よりも高度な内容を扱い、さらなる発信力を培う。4年次に開講される Academic Writing III、Research & Writing III は必修ではないが、卒業論文のライティングや英語のプレゼンテーション力を伸ばすため、履修することが望ましい。

こうした英語力習得と英語圏についての諸研究の傍ら、国際化する現代社会への的確な対応能力を養成するために、上記のような必修科目の他に、多様な英語選択科目を配置する。将来の職業と密接に関わる実用的な英語は、その目的によって特別な形態をとることがあるため、それらを ESP (English for Special Purposes) として開講する。具体的には、Speech & Performance、通訳技法基礎、翻訳技法基礎、ビジネス英語、時事英語、科学技術英語の6科目である。学生は、これらを自由に選択できるようになっており、うち1科目を必修とする。また、外国の大学に留学して修得した単位を、海外協定大学修得科目として換算できるものとする。

最終的に4年生は、4年間に受けた教育の総決算として、それぞれの専門分野において、A4用紙20枚(1頁ダブルスペースで25行)以上の分量で英語のみによる卒業論文を作成する。その指導教員は、原則として3・4年次の研究演習担当教員と一致するものとし、継続性と段階性を重視する。

#### ◆ヨーロッパ学科

##### ・フランス語圏専攻

本専攻の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、および「専門発展科目」群からなる。これらはいずれも段階履修であり、1年次から4年次まで語学的スキルと

専門的内容がスムーズにバランスよく連動するような構成をなす。

専攻言語科目では、フランス語の「読む・書く・聞く・話す」という四技能をバランスよく身に付けさせるために、文法から応用まで段階を経て発展していく科目を組んでいる。まず1年次には「フランス語Ⅰ（総合）」「フランス語Ⅰ（文法）」「フランス語Ⅰ（応用）」「フランス語Ⅰ（会話）」という4科目を設ける。「フランス語Ⅰ（総合）」は週2回、同一教員が担当し、発音・綴字法・重要文法事項などフランス語の基礎を総合的に習得させる。文法・応用・会話という他の3科目では、文法問題を解く、実際に発話するといった訓練を徹底的に行い、フランス語の基礎能力を確実に身につけさせる。このように基礎固めを行った上で、フランス語運用能力を段階的に発展させるために、2年次には「フランス語Ⅱ（総合）」「フランス語Ⅱ（文法）」「フランス語Ⅱ（応用）」「フランス語Ⅱ（会話）」に加えて、「フランス語Ⅱ（作文）」を設置し、「書く」能力を習得させる。3年次には「フランス語Ⅲ（会話）」「フランス語Ⅲ（作文）」に進み、フランス語表現能力を高める。また選択必修科目として、4年次には「上級フランス語」、3・4年次には「時事フランス語」を設定している。「上級フランス語」は、3年次までに学んだ総合的なフランス語運用能力をさらに伸ばすために口頭発表、長文読解、要約などを行う実習科目であり、卒業論文のフランス語によるレジュメ作成に必要な、学術的文章力を養う上で履修が望ましいと位置づけられる。「時事フランス語」はアクチュアルな報道言語、実用的な通信文などを読みこなす能力を養う。これらの専攻言語科目の授業は少人数クラスで行い、フランス語の運用能力と実践能力を徹底して鍛える。

なお、外国の大学に留学して修得した単位を、海外協定大学修得科目として換算することも可能である。

専門基礎科目は、まず1年次の「研究概論」、1年次後期の「基礎演習Ⅰ」、2年次前期の「基礎演習Ⅱ」からなる。これらはフランス語圏の研究のための入門段階と位置づけることができる。「研究概論」は人文社会学、言語学、文学の各系統にわたってフランス語圏についての基礎的知識を概観するものである。また「基礎演習Ⅰ」は分野や対象地域に拘わらず大学における学習と研究の方法を学ぶための必修科目である。その上で「基礎演習Ⅱ」は各専門分野の研究方法の基礎を学ぶ場として機能する。

専門発展科目は、3・4年次の「学科共通発展科目」、2・3・4年次の「研究各論」、3・4年次の「研究講読」、そして3・4年次の「研究演習」からなる。学生はこの専門発展科目を履修するに従って、自らの進むべき方向を決めていくことになる。

「学科共通発展科目」はヨーロッパ学科を特徴づける科目群である。これは、専攻3コースを区切るフランス・スペイン・ドイツといった、国家・言語による地域区分を越えた広域、EUという世界最大の市場・文化圏について概観する視点を持つことを学ぶ場である。社会と文化という領域に分けて、一大経済圏としてのヨーロッパ、あるいは西欧文明を培った長い歴史をもつ文化圏としてのヨーロッパについて、知識を得たり研究したりするための研究各論、研究演習を設定している。

フランス語圏専攻の「研究各論」では、歴史、政治・経済、言語、文学、文化、ジャンルを超えた学際的な知識を提供する特殊講義といった、各教員の専門領域に根ざした高度な講義が行われる。学生の関心や進路に応じて複数の選択・履修が可能である。

「研究講読」は、専攻言語科目で得た読解力を基礎に、各専門分野に関する文献の読み方を学ぶ科目であり、卒論準備のための第一歩と位置づけられるものである。

3・4年次に開講されている「研究演習」は2年続けて同じ分野の演習を履修することが

原則である。これらは、各論や講読で得た知識を応用し、卒業論文までつなげていくことを目指した、本格的な演習科目である。

以上のように、専門発展科目の中においても、専門的講義から卒論ゼミへと、段階的に知が構築していけるような教育課程を編成している。

4年間の教育の総決算として、4年次にそれぞれの専門分野において2万字程度の卒業論文を作成する。卒業論文の指導教員は原則として3・4年次の研究演習担当教員と一致するものとし、継続性と段階性を重視した指導がなされる。

#### ・スペイン語圏専攻

本専攻の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、および「専門発展科目」群からなる。これらはいずれも段階履修であり、1年次から4年次まで語学的スキルと専門的内容がスムーズにバランスよく連動するような構成をなす。

専攻言語科目では、スペイン語の「読む・書く・聞く・話す」という四技能をバランスよく身に付けさせるために、文法から応用まで段階を経て発展していく科目を組んでいる。まず1年次の「スペイン語Ⅰ（総合）」「スペイン語Ⅰ（実習）」「スペイン語Ⅰ（会話）」に始まり、2年次の「スペイン語Ⅱ（講読）」「スペイン語Ⅱ（文法）」「スペイン語Ⅱ（会話）」「スペイン語Ⅱ（作文）」、さらに3年次の「スペイン語Ⅲ（会話）」「スペイン語Ⅲ（作文）」へ進んでいく。また、3・4年次では、「上級スペイン語」でスペイン語運用能力を学術、医療、法律、教育など特定分野で伸ばす。学術分野では卒業論文のスペイン語レジュメ作成に必要な文章力を養成する。「時事スペイン語」では新聞など報道スペイン語や実用的な通信文を読む力を養う。なお、専攻言語科目の授業は少人数クラスで行い、スペイン語の読解力、表現力、コミュニケーション能力が自ずと身につくよう配慮してある。

なお、外国の大学に留学して修得した単位を、海外協定大学修得科目として換算することも可能である。

専門基礎科目は、1年次の「基礎演習Ⅰ」、「研究概論」、2年次の「基礎演習Ⅱ」からなる。これらはスペイン語圏の研究のための入門段階と位置づけることができる。「基礎演習Ⅰ」は分野や対象地域に拘わらず大学における学習と研究の方法を学ぶための必修科目であり、「研究概論」はスペイン語圏の社会（政治・経済・歴史）や文化（言語・文学）の各系統にわたって基礎的知識を概観するものである。プレゼミとしての「基礎演習Ⅱ」では、ある程度専門性を持った演習の基礎を学ぶことになる。

専門発展科目は、3・4年次の「学科共通発展科目」、2・3・4年次の「研究各論」、3・4年次の「研究講読」、そして3・4年次の「研究演習」からなる。学生はこの専門発展科目を履修するに従って、自らの進むべき方向を決めていくことになる。

「学科共通発展科目」はヨーロッパ学科を特徴づける科目群である。これは、専攻3コースを区切るフランス・スペイン・ドイツといった、国家・言語による地域区分を越えた広域、EUという世界最大の市場・文化圏について概観する視点を持つことを学ぶ場である。社会と文化という領域に分けて、一大経済圏としてのヨーロッパ、あるいは西欧文明を培った長い歴史をもつ文化圏としてのヨーロッパについて、知識を得たり研究したりするための研究各論、研究演習を設定している。

スペイン語圏の「研究各論」では、スペインおよびラテンアメリカの歴史、政治・経済、言語、文学、文化についての各教員の専門領域に根ざした高度な講義が行われ、学生各自の

関心や進路に応じての柔軟な選択・履修が可能である。

「研究講読」は、専攻言語科目で得た読解力を基礎に、各専門分野に関する研究文献の読み方を学ぶ科目であり、卒論準備のための第一歩と位置づけられるものである。

「研究演習」は二年続けて同じ教員のクラスを取ることが原則であり、各論や講読で得た知識を応用しつつ、各専門分野の理論や思考方法を学び、卒業論文までつなげていくことを目指した本格的な演習科目である。

以上のように、専門発展科目の中においても、専門的講義から卒論ゼミへと、段階的に知が構築していきけるような教育課程を編成している。

4年間の教育の総決算として、4年次にそれぞれの専門分野において2万字程度の卒業論文を作成する。卒業論文の指導教員は原則として3・4年次の研究演習担当教員と一致するものとし、継続性と段階性を重視した指導がなされる。

#### ・ドイツ語圏専攻

本専攻の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、および「専門発展科目」群からなる。これらはいずれも段階履修であり、1年次から4年次まで語学的スキルと専門的内容がスムーズにバランスよく連動するような構成をなす。

専攻言語科目では、ドイツ語の「読む・書く・聞く・話す」という四技能をバランスよく身に付けさせるために、文法から応用まで段階を経て発展していく科目を組んでいる。1年次は週3回の「ドイツ語Ⅰ（総合）」、週2回の「ドイツ語Ⅰ（会話）」の二つの柱で基礎を固める。2年次にはその応用として「ドイツ語Ⅱ（講読）」、「ドイツ語Ⅱ（会話）」、「ドイツ語Ⅱ（作文）」、さらに基礎的文法の確認・発展として「ドイツ語Ⅱ（文法）」が開設される。続いて3年次には「ドイツ語Ⅲ（会話）」、「ドイツ語Ⅲ（作文）」、4年次には「ドイツ語Ⅳ（会話）」、「ドイツ語Ⅳ（作文）」が開設される。3・4年次には、さらなる読解能力をのばすために「ドイツ語上級」、また選択科目として、アクチュアルな報道言語、実用的な通信文などを演習する「時事ドイツ語」が設定されている。また、4年次の「ドイツ語Ⅳ（作文）」は選択科目であるが、卒業論文のドイツ語によるレジュメ作成に必要な、学術的文章力を養う上で履修が望ましいと位置づけている。これらの授業は少人数クラスで行い、ドイツ語の運用能力と実践能力を徹底して鍛える。

なお、外国の大学に留学して修得した単位を、海外協定大学修得科目として換算することも可能である。

専門基礎科目には、まず1年次の「研究概論」、1年次後期の「基礎演習Ⅰ」、2年次前期の「基礎演習Ⅱ」からなる。これらはドイツ語圏の研究のための入門段階と位置づけることができる。「研究概論」は人文社会学、言語学、文学の各系統にわたって基礎的知識を概観するものである。また「基礎演習Ⅰ」は分野に拘わらず大学における学習と研究の方法を学ぶための必修科目である。その上で「基礎演習Ⅱ」は各専門分野の研究方法を実習する場として機能する。

専門発展科目は、3・4年次の「学科共通発展科目」、2・3・4年次の「研究各論」、3・4年次の「研究講読」、そして3・4年次の「研究演習」からなる。学生はこの専門発展科目を履修するに従って、自らの進むべき方向を決めていくことになる。

「学科共通発展科目」はヨーロッパ学科を特徴づける科目群である。これは、専攻3コースを区切るフランス・スペイン・ドイツといった、国家・言語による地域区分を越えた広域、

EUという世界最大の市場・文化圏について概観する視点を持つことを学ぶ場である。社会と文化という領域に分けて、一大経済圏としてのヨーロッパ、あるいは西欧文明を培った長い歴史をもつ文化圏としてのヨーロッパについて、知識を得たり研究したりするための研究各論、研究演習を設定している。

ドイツ語圏について、「研究各論」は、歴史、政治、法律、経済、言語、文学、文化、またゲルマン諸語に属する北欧の言語・文化、ジャンルを超えた学際的な知識を提供する特殊講義といった、各教員の専門領域に根ざした高度な講義が行われる。学生のニーズに応じて複数の選択・履修が可能である。

「研究講読」は、専攻言語科目で得た読解力を基礎に、各専門分野に関する文献の読み方を学ぶ科目であり、卒論準備のための第一歩と位置づけられるものである。

3・4年次に開講されている「研究演習」は2年続けて同じ分野の演習を履修することが原則である。これらは、各論や講読で得た知識を応用し、卒業論文までつなげていくことを目指した、本格的な演習科目である。

4年間の教育の総決算として、4年次にそれぞれの専門分野においてドイツ語のレジュメを伴った2万字程度の卒業論文を作成する。卒業論文の指導は原則として3・4年次の研究演習担当教員が担当し、継続性と段階性を重視しながらも研究の自発的な発展を支え、促進する。

#### ◆中国学科

本学科の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、および「専門発展科目」群からなる。これらについては、1年次から4年次まで語学的スキルと専門内容がスムーズにかつバランスよく連動するように配慮している。また、本学科の科目群は原則として中国語圏を対象とするものであるが、科目名に「東アジア」を冠するものは特に非中国語圏の東アジア地域を扱う科目である。

本学科の専攻言語科目の中心をなすものは中国語であり、これに東アジア言語が加わる。中国語科目は、「読む・書く・聞く・話す」という四技能がバランスよく段階的に身に付くよう配慮されている。まず、1年次前期に「中国語Ⅰ（基礎）」で集中的に基本を身に付け、その後は1年次後期～2年次の「中国語Ⅰ・Ⅱ（総合）」、1年次後期～3・4年次の「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（文法作文）」、1年次後期～3・4年次の「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（会話）」、2年次～3年次の「中国語Ⅱ・Ⅲ（講読）」というように、「総合・文法作文・会話・講読」の四本柱により学習が進行する。これらの授業はすべて少人数クラスで行い、中国語の運用能力と実践能力を徹底して鍛える。すべての単位が必修であり、中国語の読解力、表現力、コミュニケーション能力が自ずと身につくよう配慮している。また、3・4年次には選択科目として「時事中国語」と「ビジネス中国語」が設けられており、学生は自ら進みたい方向に沿った専門性の高い中国語の授業を取ることが可能である。

さらに、本学科では中国語（共通語）以外の東アジアの言語を学ぶため、「東アジア言語」が必修とされている。学生は朝鮮語・タイ語・インドネシア語・広東語・上海語の中から選択し履修することになる。

なお、外国の大学に留学して修得した単位を、海外協定大学修得科目として換算することも可能である。

専門基礎科目は、1年次対象の「基礎演習Ⅰ」、「研究概論」、そして2年次対象の「基礎演

習Ⅱ」からなる。これらは中国語圏の研究を始めるための入門段階と位置づけられる。

「基礎演習Ⅰ」は分野に拘わらず大学における学習と研究の方法を学ぶための必修科目である。「研究概論」は基礎的講義であり、「中国語・言語民族」、「文学・文化」、「歴史・社会」、「政治・経済」という四つの研究分野に非中国語圏を扱う「東アジア社会」が加わる。中国及び東アジア地域に関する多角的な視野を獲得するため、そのうちの三分野を修得することを義務付けている。プレゼミとしての「基礎演習Ⅱ」では上記の四分野の中から一つを選択し、ある程度専門性を持った演習の基礎を学ぶことになる。

専門発展科目は、2・3・4年次の「研究各論」、3・4年次の「研究講読」、そして3・4年次の「研究演習」からなる。学生はこの専門発展科目を履修するに従って、中国語圏の研究において、自らの進むべき方向を決めていくことになる。

「研究各論」では上記の四研究分野をさらに分けた「中国語」、「言語民族」、「文学」、「文化」、「歴史」、「社会」、「政治」、「経済」の8科目を立て、これに非中国語圏を扱う「東アジア言語文化」、「東アジア社会」を加えて、各教員の専門領域に根ざした高度な講義を行う。

「研究講読」は、専攻言語科目で得た読解力を基礎として、各専門分野に関する文献の読み方を学ぶ科目であり、卒論準備のための第一歩である。「研究演習」は二年続けて同じ教員のクラスを取ることが原則であり、各論や講読で得た知識を応用し、卒業論文までつなげていくことを目指した、本格的な演習科目である。以上のように、専門発展科目の中においても、専門的講義から卒論ゼミへと、段階的に知が構築していけるような教育課程を編成している。

4年間の教育の総決算として、4年次にそれぞれの専門分野において2万字程度の卒業論文を作成する。卒業論文の指導教員は原則として3・4年次の研究演習担当教員と一致させることとし、継続性と段階性を重視した指導を受けることになる。

#### ◆国際関係学科

本学科の専門教育課程は、「専攻言語科目」群、「専門基礎科目」群、「専門発展科目」群からなっている。専攻言語科目群はその内部が段階履修であり、また専門基礎科目群から専門発展科目群の履修へとつながるように段階的配置となっている。1年次から4年次までそれぞれの科目がバランスよく配分され、語学技能と専門的内容が連動するような構成をなしている。

本学科の専攻言語科目の目的は、実用文書および専門的な内容の理解能力のみならず、自らの情報発信や議論が可能となる程度までコミュニケーションツールとして英語技能を高めることである。文字メディアに対応するリーディング、ライティングと音声メディアに対応するオーラル・コミュニケーション（それぞれ初・中級）を1・2年次に集中的に習得し、3年次で総合英語上級、3・4年次では実務文書英語、英語表現法（プレゼンテーション）と、段階的に配置している。オーラル・コミュニケーションと実務文書英語は主に外国人教員が担当し、実際の運用能力を高めるトレーニングをすることで、目的の達成を可能としているカリキュラムである。

なお、外国の大学で修得した単位については「海外協定大学修得科目」として換算することも可能である。

専門基礎科目は、詳細かつ専門的な学習内容を含む「研究各論」に進む前段階として、1・2年次において履修される選択必修科目である。1年次では多岐にわたる国際関係に関わる

分野と国際文化に関わる分野についての幅広い知識について講義される「研究概論」のうちいずれか2単位と、大学における演習形式での議論の方法の基礎を学ぶ「基礎演習Ⅰ」が必修単位である。2年次では「基礎演習Ⅱ」が必修単位となる。社会科学系、人文科学系の学問領域における、いくつかの具体的なテーマからいずれかの演習を選択し、授業内でのプレゼンテーションを通して、その領域における考察の方法論をトレーニングするものである。専門基礎科目の発展編として専門発展科目が設置されている。そのうち研究各論では「国際法」「国際経済」「国際政治」といった社会科学系の国際関係分野の科目群だけでなく「文学・批評」「文化人類学」「社会言語学」といった人文科学系の国際文化理解のために重要な科目群が並び、また、双方を繋ぐ「多文化共生論」「異文化コミュニケーション論」などの複合領域の科目が配置されている。

また、2年次までの集中的な英語トレーニングで得た技能を用い、3・4年次においては、「研究各論」で選択する科目や「研究演習」で扱うテーマと連動する分野の英語文献を講読する「研究講読」が国際関係・国際文化分野それぞれに用意され、いずれか4単位を選択必修としている。

さらに「研究演習」を、各自が選択した研究テーマ（国際関係分野または国際文化分野）ごとに、3・4年次にわたり同一の分野で履修する。その「研究演習」における教員のきめ細かな指導と自立的な学生の活動がさらに発展し卒業論文として結実するよう、専門分野ごとに教員が指導上の連携体制をとる。

4年次において、学習・研究の総決算として2万字程度の卒業論文を作成する。卒業論文は日本語の使用が原則で、A4用紙2枚程度の英文概要を添付することを義務づける。卒業論文の指導は原則として3・4年次の「研究演習」担当教員と一致するものとし、継続性と段階性を重視する。

#### ◆学部共通科目

学部共通の科目には、①関連言語科目、②学部共通基礎科目、③学部共通各論の三種類がある。

①は、第二外国語とは別に選択科目として他言語を学びたい学生のために用意されているもので、「西洋古典語」、「諸地域言語」からなる。国際関係学科のみ2単位必修（ただし、専攻言語以外の全学共通外国語いずれかで読み替えることも可能）で、その他の学科は自由選択である。

②は、学科を超えて外国語学部生として必要な基礎的な知識を身に付けるために用意されているもので、「言語研究入門」、「文学・文化研究入門」、「政治・経済研究入門」、「歴史・社会研究入門」からなる。各学科の教員が交代で担当し、学生はこの中から最低4単位を必修として選択する。

③は②の発展編であり、「経済学」、「日本の行政法」、「日本の文化」、「思想史」、「比較文化論」、「言語学」、「日本語学」、「日本語教授法」等からなる。学生はこの中から最低8単位を必修として選択する。また、これらの共通各論として用意された科目のみならず、他学科の「研究各論」を履修した場合も、「学部共通各論」の履修と同じ扱いとなる。所属学科の科目ではないが学問領域に共通性があるような場合に、学科の垣根を低くし容易に履修できるよう、他学科の研究各論の履修が、「他学科履修」としてではなくこの「学部共通各論」として認定されるシステムとなっている。

これら外国語学部共通科目群の履修や他学科の研究各論の履修により、学生は外国語学部  
の学生としてのアイデンティティを育てていくことになる。

## 5 教員組織の編成の考え方及び特色

新外国語学部は、従来の愛知県立大学外国語学部の教員組織を基盤としつつ、特に新英米  
学科には従来の文学部英文学科の教員組織が統合され、また国際関係学科に関しては、従来  
の外国語学部の学部共通グループに英米学科と文学部の教員計3名が加わり、さらにいくつ  
かの担当科目の教員が新たに採用されて、構成されることになる。ヨーロッパ学科、中国学  
科は基本的には従来の愛知県立大学外国語学部の当該組織を基盤としている。

それぞれの学科の教員組織は、各教育目標を達成するために、各分野において高度な専門  
的能力と教育能力を有し、それぞれの学問分野に通暁するとともに、当該科目を担当する教  
員に関しては、高度な外国語運用能力を教授しうる能力を十分有する者を配している。また、  
各学科の中核となる科目には、教育研究に十分な実績を有する専任の教授または准教授を充  
てている。

### ◆英米学科

教員組織については、愛知県立大学文学部英文学科と、外国語学部英米学科の組織を引き  
継ぐ。

学科の教育目標を達成するために、各分野において高度な専門的能力及び教育能力を有す  
る教員により教員組織を編成する。いずれの教員も英語圏を対象とする社会科学系の分野、  
文学・文化、および英語学・英語教育学の分野のいずれかに関連した教育研究に通暁し、か  
つ高度な語学教育力を併せ持っており、適切な教員配置になっている。学科の中核科目とし  
て、専攻外国語である英語科目については、新入生向けの **Communicative English I** を開設す  
る。これらを担当する教員には、教授、あるいはそれに該当する能力のある専任の准教授を  
必ず含む。専門科目は、①イギリスの社会、②アメリカの社会、③イギリスの文学・文化、  
④アメリカの文学・文化、⑤英語学・英語教育学の五分野に分けられる。それぞれの中核科  
目として「研究各論（イギリスの歴史）」、「研究各論（アメリカの歴史）」、「研究各論（イギ  
リスの文学・文化史）」、「研究各論（アメリカの文学・文化史）」、「研究各論（英語史）」を開  
設する。これらの科目には、教育研究に十分な実績を有する専任の教員を充てる。

学科に所属する専任教員は、設置年度において教授13名、准教授12名、講師3名の計  
28名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように  
配置している。「年齢構成表」を参照のこと。

### ◆ヨーロッパ学科

#### ・フランス語圏専攻

教員組織は、愛知県立大学外国語学部フランス学科の組織を引き継ぐ。

本専攻の教育目標を達成するために、各分野において高度な専門的能力及び教育能力を有  
する教員により教員組織を編成する。いずれの教員もフランス語圏を対象とした人文社会系、  
文学・文化系、語学に関連した教育研究に通暁しかつ高度な語学教育力を併せ持っており、  
適切な教員配置と言える。



まず、専攻言語であるフランス語は、初修外国語であることから1年次の基礎が特に重要であり、その中心となる「フランス語Ⅰ（総合）」は専任の教授および准教授が担当する。

専門科目は、①フランス史、②フランス政治・経済、③フランス語学、④フランス文学、⑤フランス文化の五分野にわたり、中核科目として「研究各論（フランス史）」、「研究各論（フランス政治・経済）」、「研究各論（フランス語学）」、「研究各論（フランス文学）」、「研究各論（フランス文化）」が開設される。これらの科目には、それぞれの分野において教育研究に十分な実績を有する専任の教授または准教授を充てる。

専攻に所属する専任教員は、設置年度において教授4名、准教授5名、講師2名の計11名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように配置している。「年齢構成表」を参照のこと。

#### ・スペイン語圏専攻

教員組織は、愛知県立大学外国語学部スペイン学科の組織を引き継ぐ。

本専攻の教育目標を達成するために、各分野において高度な専門的能力及び教育能力を有する教員により教員組織を編成する。いずれの教員もスペインおよびラテンアメリカを対象とした言語学、文学、人文社会科学に関連した教育研究に通暁かつ高度な語学教育力を併せ持っており、適切な教員配置と言える。

まず、専攻言語であるスペイン語は、初修外国語であることから1年次の基礎が特に重要であり、その中心となる「スペイン語Ⅰ（総合）」は専任の教授および准教授が担当する。

専門科目は、①スペイン史、②ラテンアメリカ史、③スペイン社会・経済、④ラテンアメリカ政治・経済、⑤スペイン語圏の言語、⑥スペイン語圏文学、⑦スペイン語圏の文化という七分野にわたり、中核科目として、「研究各論（スペイン史）」、「研究各論（ラテンアメリカ史）」、「研究各論（スペイン社会）」、「研究各論（ラテンアメリカ政治・経済）」、「研究各論（スペイン語圏の言語）」、「研究各論（ラテンアメリカ文学）」が開設される。これらの科目には、それぞれの分野において教育研究に十分な実績を有する専任の教授または准教授を充てる。

専攻に所属する専任教員は、設置年度において教授5名、准教授5名の計10名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように配置している。「年齢構成表」を参照のこと。

#### ・ドイツ語圏専攻

教員組織は、愛知県立大学外国語学部ドイツ学科の組織を引き継ぐ。

本専攻の教育目標を達成するために、各分野において高度な専門的能力及び教育能力を有する教員により教員組織を編成する。いずれの教員もドイツ語圏、ゲルマン諸語圏を対象とした人文社会系、文学・文化系、語学に関連した教育研究に通暁かつ高度な語学教育力を併せ持っており、適切な教員配置と言える。

まず、専攻言語であるドイツ語は、初修外国語であることから1年次の基礎が特に重要であり、その中心となる「ドイツ語Ⅰ（総合）」は専任の教授および准教授が担当する。

専門科目は、大別すると①ドイツの歴史・政治、②ドイツの経済・法律、③ドイツの言語・文化、④北欧の言語・文化の四分野にわたり、「研究各論」がそれぞれの分野における教育の要として設置されている。それぞれの中核科目として「研究各論（ドイツ政治）」、「研究各論

(ドイツ史)、「研究各論(ドイツ法)」、「研究各論(ドイツ語学)」、「研究各論(北欧の言語・文化)」を開設する。これらの科目にはそれぞれの分野において教育研究に十分な実績を有する専任の教授または准教授を充てる。

専攻に所属する専任教員は、設置年度において教授5名、准教授6名、講師2名の計13名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように配置している。「年齢構成表」を参照のこと。

#### ◆中国学科

教員組織は、愛知県立大学外国語学部中国学科の組織を引き継ぐ。

本学科の教育目標を達成するために、各分野において高度な専門的能力及び教育能力を有する教員により教員組織を編成する。いずれの教員も中国語圏及びその他の東アジア地域を対象とした研究に通暁しており、かつ高度な語学教育力を併せ持っているため、適切な教員配置と言える。

専門科目は、大きく①中国語・言語民族、②文学・文化、③歴史・社会、④政治・経済の四分野に分かれており、それぞれの中核科目として「研究各論(言語民族)」、「研究各論(文学)」、「研究各論(歴史)」、「研究各論(政治)」を開設する。これらの科目にはそれぞれの分野において教育研究に十分な実績を有する専任の教授または准教授を充てる。

学科に所属する専任教員は、設置年度において教授6名、准教授5名の計11名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように配置している。「年齢構成表」参照のこと。

#### ◆国際関係学科

教員組織については、愛知県立大学外国語学部・学部共通グループの組織を基盤とし、そのほか外国語学部英米学科、文学部英文学科、文学部日本文化学科から教授各1名が移籍、さらに本学科の教育目標にあわせ、2名を新規教員として配置する。

学科の専門科目の基礎となる必修科目である「研究概論(国際関係)」「研究概論(国際文化)」は、専任の教授および准教授が担当する。

学科の教育目標を達成するために多様な科目を配置するが、学科の専門科目は、国際関係の分野と国際文化の分野に大別される。国際関係分野の中核科目となる「研究各論(国際法各論)」「研究各論(国際経済学各論)」、国際文化分野の中核科目となる「研究各論(文化人類学各論)」「研究各論(文学・批評)」には当該分野において教育研究に十分な実績を有する専任の教授を充てる。

学科に所属する専任教員は、設置年度において教授7名、准教授4名、講師1名の計12名であり、専任教員の年齢構成には偏りがなく、しかも設置基準を十分に満たすように配置している。「年齢構成表」を参照のこと。

## 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本学部では、当該専攻言語の高度な運用能力と、それぞれの対象言語圏、もしくは国際社会に対する多角的で構造的な分析能力を養うことを理念としており、それに基づいて優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮することができる人材を育成することが目的である。

そのため、当該専攻言語に関する実習形態の科目を「専攻言語科目」として、特に1年次と2年次に厚く配しつつも、4年次まで設置して、段階的に履修できるようにする。また、1年次から2年次にかけては、いわば専門分野での研究の導入ともなる「専門基礎科目」群を設置し、概論講義と基礎的な演習科目を配している。特に「基礎演習Ⅰ」は1年次に配し、より身近なテーマについて調査やプレゼンテーションを行い、大学での研究がどのようなものであるかを学ばせる方針をとっている。それに続いて行われる「基礎演習Ⅱ」では、大括りの学問分野について文献の綿密なる読解や専門文献の調査、そして発表などを課し、3・4年次での卒業論文作成に向けての助走としている。3・4年次では、研究各論、研究演習、研究講読の科目を通じて、自ら選択した研究分野の知識をより実践的な形態でもって教授するとともに、より自発的な形で研究活動をおこなう。その際、基本的にはどのような分野でも、多様な授業科目を学科内、ないしは学部内で比較的自由に履修できるような方策をとっている。

履修指導等に関しては、年度当初の新生ガイダンスや、在校生ガイダンスを通して行ない、学生全員に履修が万全になるように工夫している。また、教員各自はオフィスアワーを設定し、公示することで、勉学や生活一般についての相談も受け付ける態勢となっている。最後に卒業論文では、指導教員の指導を得て、十分な論文作成が行われる態勢を整えている。

以下、それぞれの学科ごとに卒業要件の内訳を記す。

#### ◆英米学科

本学科は、高度な英語コミュニケーション能力と、英語圏の社会、文学・文化ならびに言語に対する深い知識、国際的視野、多様な文化に対する理解力を身につけた人材の育成に努めることを目的とする。そのため、高度な英語力の涵養に寄与する科目を「専攻言語科目」として配置し、1年次から4年次にいたる段階履修を旨とする。1年次から2年次にかけて設置されている専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、学生は1年次には英米学科の全専門分野を広く学び、2年次にその中から、自分の目的に沿った専門分野を選択していくことになる。3年次から4年次には、専門科目がより高度になり「専門発展科目」として、学生のニーズに適合し、かつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修できるようにする。言語科目や演習科目はできる限り少人数クラス編成とするなど、授業科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

年度初めの新生ガイダンス、在校生ガイダンス、個別説明会などで、適切な履修モデルを提示し、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。また、オフィスアワーを設定し、履修計画そのほか、勉学についての相談を受けられるようにする。また、1年次の基礎演習Ⅰ、2年次の基礎演習Ⅱ、3・4年次の研究演習は、少人数制できめ細やかな履修指導を行い、4年次には卒業論文指導も行う。

卒業に必要な単位数は124単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は次のとおりである。

##### (1) 全学共通科目

- ・情報科目 2単位
- ・外国語科目 8単位（英語以外の1種類）
- ・教養科目 10単位
- ・健康・スポーツ科目 2単位（スポーツ実習）を含む合計30単位

- (2) 専攻言語科目 26単位
- (3) 専門基礎科目 18単位
- (4) 専門発展科目 38単位
- (5) 卒業論文 8単位

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の3パターンが考えられる。

●履修モデルA：一般企業（国際ビジネス）、国際機関、外務省、NPO法人

卒業後の進路としては、高い英語運用能力を基礎としつつ、英語圏に関する政治や経済、法律などの知識を生かし、国際ビジネスマン、外務省職員、NPO職員などとして国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルB：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高い英語運用能力を基礎としつつ、英語圏に関する社会や文学、文化などの知識を生かし、出版、ジャーナリズム、放送などのマスコミ界や、高い語学力を生かした翻訳、通訳などの分野で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルC：教員

英語の高等学校教諭一種免許状、ないしは中学校教諭一種免許状取得のための教科を履修し、当該免許状を取得し、卒業後、教育機関において教員として活躍する。

上記の進路に相当する英米学科の履修モデルは「資料1」の通りである。

◆ヨーロッパ学科

・フランス語圏専攻

本専攻は、高度なフランス語運用能力と、フランス語圏ひいてはヨーロッパ地域に対する多角的で構造的な分析能力を養うことを理念としており、それに基づいて優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮することができる人材を育成するのが目的である。そのため、高度なフランス語運用能力の養成に寄与する科目を「専攻言語科目」として配置し、1年次から4年次までの段階履修とする。1年次から2年次にかけて設置されている専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、2年次から自分の目的に沿った専門分野を選択していくことになる。3年次・4年次には、より高度な専門科目として「専門発展科目」を設置し、学生のニーズに適合し、かつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修できるようにする。言語科目や演習科目はできる限り少人数のクラス編成とするなど、授業科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

年度初めの新入生ガイダンス、在学生ガイダンス、さらに分野選択の節目に開かれる演習、卒論などの説明会などにおいて適切な履修モデルを提示し、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。また、オフィスアワーを設定して、履修計画や勉学についての相談などを受けられるようにする。また、1年次の「基礎演習Ⅰ」、2年次の「基礎演習Ⅱ」、3・4年次の「研究演習」は、少人数制できめ細やかな履修指導を行い、4年次には卒業論文の指導も行う。

卒業に必要な単位数は124単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は以下の通りである。

- (1) 全学共通科目
  - ・情報科目 2単位
  - ・外国語科目 8単位（フランス語以外の1種類）
  - ・教養科目 10単位

- ・健康・スポーツ科目 2 単位（スポーツ実習）を含む合計 30 単位
- (2) 専攻言語科目 26 単位
- (3) 専門基礎科目 12 単位
- (4) 専門発展科目 36 単位
- (5) 卒業論文 8 単位

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の3パターンが考えられる。

●履修モデルA：一般企業（国際ビジネス）、国際機関、外務省、NPO法人

卒業後の進路としては、高いフランス語運用能力を基礎としつつ、フランス語圏に関する政治や経済、法律などの知識を生かし、一般企業（国際ビジネス）、外務省職員、NPO職員などとして国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルB：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高いフランス語運用能力を基礎としつつ、フランス語圏に関する社会や文学、文化などの知識を生かし、出版、ジャーナリズム、放送などのマスコミ界で活躍する職種や、高い語学上の専門性を生かし翻訳、通訳などの分野で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルC：教員

フランス語に関する高等学校教諭一種免許状、ないしは中学校教諭一種免許状取得のための教科を履修して当該免許状を取得し、卒業後、教育機関において教員として活躍する。

上記の進路に相当するフランス語圏専攻の履修モデルは「資料2」の通りである。

・スペイン語圏専攻

本専攻は、高度なスペイン語運用能力と、スペイン語圏およびヨーロッパ地域に対する多角的で構造的な分析能力を養うことを理念としており、それに基づいて優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮することができる人材を育成するのが目的である。そのため、高度なスペイン語運用能力の養成に寄与する科目を「専攻言語科目」として配置し、1年次から4年次までの段階履修とする。1年次から2年次にかけて設置されている専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、2年次から自分の目的に沿った専門分野を選択していくことになる。3年次・4年次には、より高度な専門科目として「専門発展科目」を設置し（「各論」は2年次から履修可能）、学生のニーズに適合し、かつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修できるようにする。言語科目や演習科目はできる限り少人数のクラス編成とするなど、授業科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

年度初めの新入生ガイダンス、在学生ガイダンス、さらに分野選択の節目に開かれる演習、卒論などの説明会などにおいて適切な履修モデルを提示し、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。また、オフィスアワーを設定して、履修計画や勉学についての相談などを受けられるようにする。また、1年次の「基礎演習Ⅰ」、2年次の「基礎演習Ⅱ」、3・4年次の「研究演習」は、少人数制できめ細やかな履修指導を行い、4年次には卒業論文の指導も行う。

卒業に必要な単位数は124単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は以下の通りである。

- (1) 全学共通科目
  - ・情報科目 2 単位
  - ・外国語科目 8 単位（スペイン語以外の1種類）

- ・教養科目 10単位
- ・健康・スポーツ科目 2単位（スポーツ実習）を含む合計30単位
- (2) 専攻言語科目 24単位
- (3) 専門基礎科目 16単位
- (4) 専門発展科目 36単位
- (5) 卒業論文 8単位

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の3パターンが考えられる。

●履修モデルA：一般企業（国際ビジネス）、国際機関、外務省、NPO法人

卒業後の進路としては、高いスペイン語運用能力を基礎としつつ、スペイン語圏に関する政治や経済、法律などの知識を生かし、一般企業（国際ビジネス）、外務省職員、NPO職員などとして国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルB：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高いスペイン語運用能力を基礎としつつ、スペイン語圏に関する社会や文学、文化などの知識を生かし、出版、ジャーナリズム、放送などのマスコミ界で活躍する職種や、高い語学上の専門性を生かし翻訳、通訳などの分野で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルC：教員

スペイン語に関する高等学校教諭一種免許状、ないしは中学校教諭一種免許状取得のための教科を履修して当該免許状を取得し、卒業後、教育機関において教員として活躍する。

上記の進路に相当するスペイン語圏専攻の履修モデルは「資料3」の通りである。

・ドイツ語圏専攻

本専攻は、高度なドイツ語運用能力と、ドイツ語圏ひいてはヨーロッパ地域に対する多角的で構造的な分析能力を養うことを理念としており、それに基づいて優れた異文化理解能力と国際的判断力を発揮することができる人材を育成するのが目的である。そのため、高度なドイツ語運用能力の養成に寄与する科目を「専攻言語科目」として配置し、1年次から4年次までの段階履修とする。1年次から2年次にかけて設置されている専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、2年次から自分の目的に沿った専門分野を選択していくことになる。3年次・4年次には、より高度な専門科目として「専門発展科目」を設置し、学生のニーズに適合し、かつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修できるようにする。言語科目や演習科目はできる限り少人数のクラス編成とするなど、授業科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

年度初めの新生ガイダンス、在学生ガイダンス、さらに分野選択の節目に開かれる演習、卒論などの説明会などにおいて適切な履修モデルを提示し、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。また、オフィスアワーを設定して、履修計画や勉学についての相談などを受けられるようにする。また、1年次の「基礎演習Ⅰ」、2年次の「基礎演習Ⅱ」、3・4年次の「研究演習」は、少人数制できめ細やかな履修指導を行い、4年次には卒業論文の指導も行う。

卒業に必要な単位数は124単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は以下の通りである。

- (1) 全学共通科目
  - ・情報科目 2単位

- ・外国語科目 8 単位（ドイツ語以外の 1 種類）
- ・教養科目 10 単位
- ・健康・スポーツ科目 2 単位（スポーツ実習）を含む合計 30 単位
- (2) 専攻言語科目 26 単位
- (3) 専門基礎科目 12 単位
- (4) 専門発展科目 36 単位
- (5) 卒業論文 8 単位

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の 3 パターンが考えられる。

●履修モデル A：一般企業（国際ビジネス）、国際機関、外務省、NPO 法人

卒業後の進路としては、高いドイツ語運用能力を基礎としつつ、ドイツ語圏に関する政治や経済、法律などの知識を生かし、一般企業（国際ビジネス）、外務省職員、NPO 職員などとして国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデル B：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高いドイツ語運用能力を基礎としつつ、ドイツ語圏に関する社会や文学、文化などの知識を生かし、出版、ジャーナリズム、放送などのマスコミ界で活躍する職種や、高い語学上の専門性を生かし翻訳、通訳などの分野で活躍する職種が考えられる。

●履修モデル C：教員

ドイツ語に関する高等学校教諭一種免許状、ないしは中学校教諭一種免許状取得のための教科を履修し、当該免許状を取得し、卒業後、教育機関において教員として活躍する。

上記の進路に相当するドイツ語圏専攻の履修モデルは「資料 4」の通りである。

◆中国学科

本学科は、高度な中国語運用能力と、中国語圏に対する多角的で構造的な分析能力を養うことを理念としており、それに基づく優れた異文化理解能力と国際的視野に立った判断力を発揮できる人材を育成するのが目的である。そのため、高度な中国語運用能力の養成、及びその他の東アジア言語に対する知識の養成に寄与する科目を「専攻言語科目」として 1 年次から 4 年次まで段階的に配置する。1・2 年次に設置される専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、2 年次から自分の目的に沿った専門分野を選択していく。また、2・3・4 年次には「専門発展科目」を設置し、学生のニーズに合いかつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修できるようにする。専攻言語科目や演習科目はできる限り少人数のクラス編成とし、科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

年度初めの新入生ガイダンス、在学生ガイダンス、個別説明会などにおいて適切な履修モデルを提示し、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。また、オフィスアワーを設定して、履修計画や勉学についての相談などを受けられるようにする。また、1 年次の「基礎演習 I」、2 年次の「基礎演習 II」、3・4 年次の「研究演習」は、少人数制できめ細やかな履修指導を行い、4 年次には卒業論文の指導も行う。

卒業に必要な単位数は 124 単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は以下の通りである。

- (1) 全学共通科目
  - ・情報科目 2 単位
  - ・外国語科目 8 単位（中国語以外の 1 種類）

・教養科目	10単位
・健康・スポーツ科目	2単位（スポーツ実習）を含む合計30単位
(2) 専攻言語科目	32単位
(3) 専門基礎科目	14単位
(4) 専門発展科目	28単位
(5) 卒業論文	8単位

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の3パターンが考えられる。

●履修モデルA：一般企業（国際ビジネス）、国際機関、外務省、NPO法人

卒業後の進路としては、高い中国語運用能力を基礎としつつ、中国語圏に関する政治や経済、法律などの知識を生かし、一般企業（国際ビジネス）、外務省職員、NPO職員などとして国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルB：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高い中国語運用能力を基礎としつつ、中国語圏に関する社会や文学、文化などの知識を生かし、出版、ジャーナリズム、放送などのマスコミ界で活躍する職種や、高い語学上の専門性を生かし翻訳、通訳などの分野で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルC：教員

中国語に関する高等学校教諭一種免許状、ないしは中学校教諭一種免許状取得のための教科を履修し、当該免許状を取得し、卒業後、教育機関において教員として活躍する。

上記の進路に相当する中国学科の履修モデルは「資料5」の通りである。

◆国際関係学科

本学科は、高度な英語運用能力と、社会科学分野および人文学分野の多様で幅広い分野の専門科目の学習を通して、異文化理解能力と国際社会に関する知識を有する人材を育成するのが目的である。

そのため、英語運用能力の養成に寄与する科目を「専攻言語科目」として配置し、1年次から4年次までの段階履修とする。1年次から2年次にかけて設置されている専門分野の科目は「専門基礎科目」と位置づけられ、2年次から学生が各自目的に沿った専門分野を選択していくことになる。あわせて、2年次より「専門発展科目」も多様な科目の中から、選択することが可能である。3・4年次には、さらに上級の専門発展科目と、「国際関係」または「国際文化」のいずれかの分野の英語文献による研究講読を通して、専門知識を増やすシステムとなっている。このように多様な分野から学生のニーズに適合し、かつ将来の進路に対応した多様な授業科目が履修可能となっている。

また、1年次の「基礎演習Ⅰ」、2年次の「基礎演習Ⅱ」、3・4年次の「研究演習」といった演習科目を通してきめ細やかな履修指導を行い、4年次の卒業論文指導へと一貫した教育をおこなう。言語科目や演習科目はできる限り少人数のクラス編成とするなど、授業科目の性格に応じた適正な受講学生数に配慮する。

授業以外の指導として、年度初めの新入生ガイダンス、在学生ガイダンスにおいて、学習の目的にあわせた履修モデルを提案、指導する。さらに2・3年次の分野選択の節目に開かれる演習ガイダンス、3・4年次の卒業論文説明会などにおいて適切な指導をし、学生の勉学に対する目的意識を涵養する。

また、オフィスアワーを設定して、履修計画や勉学さらには進路についての相談など、ど



の教員も常に対応できる体制を整える。

卒業に必要な単位数は、124単位とする。そのうち必修単位数・選択必修単位数の内訳は次のとおりである。

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| (1) 全学共通科目 |                            |
| ・情報科目      | 2単位                        |
| ・外国語科目     | 8単位（英語以外で4単位、他は自由選択）       |
| ・教養科目      | 10単位                       |
| ・健康・スポーツ科目 | 2単位（スポーツ実習）を含む合計30単位       |
| (2) 専攻言語科目 | 20単位                       |
| (3) 関連言語科目 | 2単位（全学共通科目の外国語でこれを満たすことも可） |
| (4) 専門基礎科目 | 10単位                       |
| (5) 専門発展科目 | 48単位                       |
| (6) 卒業論文   | 8単位                        |

卒業後の進路を想定した履修モデルとしては、次の3パターンが考えられる。

●履修モデルA：外務省、国際機関、一般企業（国際ビジネス）、国際ジャーナリズム

卒業後の進路としては、高い英語運用能力を基礎としつつ、広く国際政治や国際経済、国際法などの知識を生かし、外務省などの政府機関、国際機関、国際ビジネス、ジャーナリズムなど、国際社会で活躍する職種が考えられる。

●履修モデルB：マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳、通訳、旅行業

卒業後の進路としては、高い英語運用能力を基礎としつつ、人文学系の知識と国際社会の問題を総合した異文化理解能力を生かし、一般企業、旅行業、マスコミ（出版、ジャーナリズム、放送）、翻訳業などにおいて、国際交流に携わる職種が考えられる。

●履修モデルC：地方自治体等行政機関の国際課職員、NPO法人

卒業後の進路としては、高い英語運用能力に加えポルトガル語、スペイン語等の外国語能力も基礎としつつ、異文化理解能力と課題発見・解決能力を活かし、地方自治体等行政機関、NPO法人などにおいて、コーディネーターまたはファシリテーターとして活躍する職種が考えられる。

なお、いずれの履修モデルにおいても、全学共通科目（外国語科目）および外国語学部の関連言語科目から、進路に合わせて多様な外国語を履修することが可能となっている。

上記の進路に相当する国際関係学科の履修モデルは「資料6」の通りである。

## 7 入学者選抜の概要

本学外国語学部の入学者選抜の方法及び体制は、本学部が養成を目指す人材像、すなわち高度な外国語の運用能力と共に、グローバルな多文化共生に貢献する知見を身に付けた者となり得る適性を持った学生を選抜することを目的とする。

一般選抜前期日程は、入学定員340名中281名の募集人員を占め、本学部の入学者選抜の中心となる。センター試験を6教科6科目（国、地歴、公民、数、理、外）課し、幅広い基礎的な学力を有することを求める。個別学力検査では、英語筆記のみならず英語リスニングを課すことにより、外国語運用能力をより多面的に試験し、さらに21年度からは、従来の小論文に代えて国語（現代文）を課すことによって、多文化共生のために不可欠な、自

国の文化に対する理解力を、より一層客観的に試験することを目指す。

一般選抜後期日程は、センター試験3教科3科目（国、地歴又は公民から1、英）のみで、個別学力検査を課さない。募集人員は38名と少ないながら、いわゆる私立文系型の受験生にも、本学部入学の可能性を広げることを主たる目的としている。

推薦入学は、愛知県内の高等学校または中等教育学校を卒業見込みの者に対象を限定して実施し、県が設置する大学として、地域の学習意欲の高い生徒に、入学の機会を与えようとするものである。21年度の募集人員は21名と、従来の11名から大きく増やしている。

特別選抜は、社会人、帰国子女、外国人留学生を対象に、すべて若干名の募集人員で実施する。なお、本学部の社会人の定義は、入学時に22歳以上で、社会人の経験を4年以上有する者としており、試験に関しては、英語だけでなく、志望学科・専攻の専攻言語での受験も可とし、様々な事情を持つ社会人受験者への便宜を図る。

## 8 管理運営

学部の管理運営に関しては、学則、教授会規程、同運営内規や各学部委員会規程を定めて学部長を中心にしての運営を進める。教授会は、教授、准教授、助教、常勤の講師をもって構成し、原則として毎月二回開催する。

教授会での審議事項は、教育課程の編成に関する事、入学・卒業の認定、休学、復学、退学、学籍の変更等に関する事、学生の厚生補導及び賞罰に関する事、教員の人事、学部に関する自己点検自己評価に関する事などである。教授会の議長は学部長があたり、報告と議題の審議の全てを主宰する。教授会は、学部構成員の3分の2の出席をもって開催し、議決は出席者の過半数の同意を必要とする。また、人事採用等の特に重要と認める事項に関しては、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。議決は原則として無記名投票により、議案に関しては、提出者は、教授会の開催5日前までには議案を議長あてに提出し、教授会においてその内容を説明し、質疑を経て、議長が議決に付す。緊急動議の提起は、提起した者の他に教授会構成員1名の賛同が無ければ成立しない。そのようにして成立した緊急動議は通常の議題に準じて審議される。なお、その都度の教授会は議事録を作成し、その次の回の教授会で承認をうけて正式の記録として残す。

教授会の下には、主任会議(学部全体の管理方針などを大局的に審議する)、人事委員会(採用・退職、昇任等に関する事を審議)、企画委員会(将来計画、FD、学部としてのPR等を審議)、教務委員会(教務関係、非常勤講師の委嘱等を審議)、予算委員会(学部に配分された教員研究費と学生経費等の使用に関して審議する)、入学者選抜委員会(入試問題の作成、実施、採点等を企画し、分担を決定する)、図書・紀要委員会(学部として購入すべき図書の選定や、この委員会で選出された者は附属図書館の運営会議に出席する)などを置き、教授会では随時報告し、必要が生じた場合には、議題として審議する。

また、教授会の機能として重要な点として、学長が主催する全学委員会である教育研究審議会の審議内容をその都度報告し、全学の方針が学部全体に周知徹底されるようにする。

教授会の審議事項の中には、教員の採用人事、昇任人事の実質的審議がある。本学部では、採用人事は原則「公募制」を採り、十分な公募期間を設定して全国の研究者に周知されるよう計らい、応募者の中から学部教授会で合計6名からなる審査委員会を設置して慎重に審査し、場合によっては面接や模擬授業の実施などを経て採用を決定する。教員の昇任に関する

審査の場合も、同様に6名からなる審査委員会の体制をとる。

## 9 自己点検・自己評価

学部においても外国語学部という特性上、特に専門外国語に関する習熟度合いを何らかの形でチェックしていく必要がある。言い換えると、十分に高度な外国語運用能力が身に付いているかを絶えず検証して行く体制を取らねばならない。それにはまず設立初年度には、主に本学部を基礎として設立された高等言語教育研究所を中心に、そのアンケート内容の十分な検討を行っていく。そして、設立第2年度に実施するというスケジュールで行うこととする。十分に工夫されていて、単に型どおりのものではない学生アンケートを実施する。そして、その成果を学生との対話を通してどのような不満を抱いているかを教員各自が自覚的に改善していくという方策をとる。各教員の自己評価書の作成と各授業実践において十分に反映させることが最終目的である。

## 10 教員の資質の維持向上の方策

FDに関しては、従来は「FD研究会」として多方面から講師を招いて講演会を開催したり、学部構成員による討論会を地道に実施したりしてきたが、平成21年からは特に全学共通科目としての外国語科目と専攻外国語の授業実践の改善・向上の運動を展開する。教員間での授業の参観やパイロット的試みを行っている授業の参観とそのあとの討論会の開催をおこなう。この試みも外国語学部を基礎として設立された高等言語教育研究所を中心に実施していく。

### 11 新設「国際関係学科」の学生確保と卒業後の進路の見通し

#### (1) 外国語学部既設学科における学生確保の実績

愛知県立大学外国語学部は、昭和41年設置の英米学科、フランス学科、同43年設置のスペイン学科、平成10年設置のドイツ学科、中国学科の五学科で構成されてきた。これらの学科は、有為の人材を輩出し、高い評価を得てきた。いずれも毎年定員は確保され、新たに設置されることになる国際関係学科においても定員の確保は確実であると予測される。

#### (2) 入学需要について

愛知県立大学外国語学部の志願者倍率は、過去5年平均で5.4倍（前期日程での入学志願者は外国語学部全体で約3倍程度）であり、これは入学希望者が一定の水準を保つのに十分な倍率であると考えられる。国際関係学科への期待は、「外国語学部国際関係学科」を有する他の公立大学でも、同程度の入学志願者がいることを見ても明らかである。中部圏において、公・私立ともに国際関係学部の国際関係学科または人文学部等の国際文化学科はあるものの、語学教育を充実させた「外国語学部国際関係学科」としては中部圏初かつ唯一のものとなり、その意味でも進学需要が期待される。

下記の表は、愛知県立大学外国語学部の過去5年間の志願者数および志願者倍率と、「外国語学部国際関係学科」を有する公立大学である神戸市外国語大学と北九州市立大学の過去3年

間の志願者数および志願者倍率（外国学部全体および国際関係学科）を示したものである。  
この表の数値からも、十分な入学希望者が確保できると考えられる。

・愛知県立大学外国語学部の志願者数および志願倍率の推移

愛知県立大学		平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
外国語学部 (定員 270 名)	志願者 (人)	1688	1398	1473	1518	1251
	倍率 (倍)	<b>6. 2</b>	<b>5. 1</b>	<b>5. 3</b>	<b>5. 6</b>	<b>4. 6</b>

・神戸市外国語大学外国語学部と国際関係学科の志願者数および志願倍率の推移

神戸市外国語大学		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
外国語学部 (定員 410 名)	志願者 (人)	1910	1866	1939
	倍率 (倍)	<b>4. 7</b>	<b>4. 6</b>	<b>4. 6</b>
国際関係学科 (定員 80 名)	志願者 (人)	341	337	304
	倍率 (倍)	<b>4. 3</b>	<b>4. 2</b>	<b>3. 8</b>

・北九州市立大学外国語学部と国際関係学科の志願者数および志願倍率の推移

北九州市立大学		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
外国語学部	定員 (人)	212	219	249
	志願者 (人)	1083	1193	1188
	倍率 (倍)	<b>5. 1</b>	<b>5. 4</b>	<b>4. 8</b>
国際関係学科	定員 (人)	72	72	82
	志願者 (人)	343	349	319
	倍率 (倍)	<b>4. 8</b>	<b>4. 8</b>	<b>3. 9</b>

(3) 就職の見通しについて

外国語学部の卒業生の就職希望者に対する就職率は例年高水準を保っており、特に昼間主コースでは、就職希望者のほとんどが職を得ている。これは学生の質が高いことを示すだけでなく、入学を希望する学生にとってもきわめて魅力的な点であると言える。

・愛知県立大学外国語学部就職データ

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
就職希望者(人)	126	135	129	146	119
就職決定者(人)	118	125	123	138	100
就職率 (%)	<b>93. 7</b>	<b>92. 6</b>	<b>95. 3</b>	<b>94. 5</b>	<b>84. 0</b>

(4) 大学院進学希望者

外国語学部既設学科の過去のデータからは、毎年各学科で3人以上の範囲での大学院進学希望者が存在する。国際関係学科についても同様の数の大学院進学希望者が出ることは十分予想される。

## 外国語学部資料目次

資料1 外国語学部英米学科履修モデル

資料2 外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻履修モデル

資料3 外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻履修モデル

資料4 外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻履修モデル

資料5 外国語学部中国学科履修モデル

資料6 外国語学部国際関係学科履修モデル

<資料1>

●外国語学部 英米学科履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC		
全 学 科	科 情 報	情報処理A	1・2・3・4	2	2	1前	1前	1前	
		情報処理B	1・2・3・4	2					
		情報処理C	1・2・3・4	2					
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	1	4	8 (注)				
		英語Ⅱ	2	4					
		英語Ⅲ	3・4	4					
		ドイツ語Ⅰ	1	4					
		ドイツ語Ⅱ	2	4					
		ドイツ語Ⅲ	3・4	4				1通	
		フランス語Ⅰ	1	4				2通	
		フランス語Ⅱ	2	4				3通	
		フランス語Ⅲ	3・4	4					
		スペイン語Ⅰ	1	4					1通
		スペイン語Ⅱ	2	4					2通
		スペイン語Ⅲ	3・4	4					
		ポルトガル語Ⅰ	1	4					3通
		ポルトガル語Ⅱ	2	4					
		ポルトガル語Ⅲ	3・4	4					
		ロシア語Ⅰ	1	4					
		ロシア語Ⅱ	2	4					
		ロシア語Ⅲ	3・4	4					
		中国語Ⅰ	1	4			1通		
		中国語Ⅱ	2	4			2通		
	中国語Ⅲ	3・4	4		3通				
	日本語Ⅰ	1	4						
	日本語Ⅱ	2	4						
	日本語Ⅲ	3・4	4						
共 通 科	教 養 基 礎	哲学	1・2	2	4				
		論理学	1・2	2					
		倫理学	1・2	2				1後	
		文学	1・2	2					
		コミュニケーション論	1・2	2				1後	
		文化人類学	1・2	2				2後	
		法学	1・2	2			1前		
		政治学	1・2	2			3前		
		経済学	1・2	2			2前		
		社会学	1・2	2					
	心理学	1・2	2				1前		
	統計学	1・2	2			2後			
	数学	1・2	2						
	物理学	1・2	2						
	講 義 別	特別講義A	1・2・3・4	2					
		特別講義B	1・2・3・4	2					
		特別講義C	1・2・3・4	2					
グ ロ ー バ ル な 多 文 化 共 生	東海地方の歴史・文化	1・2・3・4	2	2					
	日本の歴史・文化	1・2・3・4	2						
	アジアの歴史・文化	1・2・3・4	2						
	ヨーロッパの歴史・文化	1・2・3・4	2						
	南北アメリカの歴史・文化	1・2・3・4	2				1前		
	世界の宗教	1・2・3・4	2						
	世界の文学	1・2・3・4	2						
	民族と国家	1・2・3・4	2						
	国際関係	1・2・3・4	2			2後			
	多文化社会におけるコミュニケーション	1・2・3・4	2					2前	
	日本の文化	1・2・3・4	2						
社 会 に お け る 人 間	芸術の世界	1・2・3・4	2	2					
	人文地理学入門	1・2・3・4	2						
	日本国憲法	1・2・3・4	2			1後		1後	
	共生と法	1・2・3・4	2			1前			
	ジェンダー論	1・2・3・4	2				1前		
	社会調査入門	1・2・3・4	2						
	社会福祉	1・2・3・4	2						
	生涯教育論	1・2・3・4	2					2後	
	臨床発達心理学	1・2・3・4	2						
	コミュニティにおけるコミュニケーション	1・2・3・4	2				1後		
日本の社会	1・2・3・4	2							

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC
目	科学技術と人間	情報科学入門	1・2・3・4	2	2		2前	
		生物学	1・2・3・4	2				
		化学	1・2・3・4	2				
		地球科学	1・2・3・4	2				
		科学史	1・2・3・4	2				1前
		科学技術と人間・社会	1・2・3・4	2			3後	
		環境科学	1・2・3・4	2				
	キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3	2				
		インターンシップ	1・2・3	2				
	健康・スポーツ科目	健康科学	1・2・3・4	2				
		生涯スポーツ論	1・2・3・4	2				
		スポーツ実習	1・2・3・4	2	2	1後	2前	2前
	総合演習科目	総合演習A	3・4	2				3前
		総合演習B	3・4	2				
		総合演習C	3・4	2				
		総合演習D	3・4	2				
		総合演習E	3・4	2				
		総合演習F	3・4	2				
	専攻言語科目	Communicative English I	1	6	6	1通	1通	1通
		Communicative English II	2	4	4	2通	2通	2通
		Communicative English III	3	2	2	3通	3通	3通
English Phonetics		1	2	2	1通	1通	1通	
Grammar & Basic Writing		1	2	2	1通	1通	1通	
Academic Writing I		2	2	2	2通	2通	2通	
Academic Writing II		3	2	2	3通	3通	3通	
Academic Writing III		4	2			4通	4通	
Research & Discussion I		2	2	2	2通	2通	2通	
Research & Discussion II		3	2	2	3通	3通	3通	
Research & Discussion III		4	2			4通		
Speech & Performance		2・3・4	2				2通	
通訳技法基礎		2・3・4	2	2			2通	
翻訳技法基礎		2・3・4	2				3通	
ビジネス英語	2・3・4	2			2通			
時事英語	2・3・4	2						
科学技術英語	2・3・4	2						
関連言語科目	西洋古典語Ⅰ	2・3・4	2					
	西洋古典語Ⅱ	2・3・4	2					
	諸地域言語	2・3・4	4					
専門基礎科目	基学 基礎部 科目通	言語研究入門	1・2	4	4			1通
		文学・文化研究入門	1・2	4				1通
		政治・経済研究入門	1・2	4			1通	
		歴史・社会研究入門	1・2	4				
	学科 基礎科目	研究概論(イギリスの社会)	1	2	2	1前	1前	1前
		研究概論(アメリカの社会)	1	2	2	1後	1後	1後
		研究概論(イギリスの文学・文化)	1	2	2	1前	1前	1前
		研究概論(アメリカの文学・文化)	1	2	2	1後	1後	1後
		研究概論(英語学)	1	2	2	1後	1後	1後
		基礎演習Ⅰ	1	2	2	1前	1前	1前
		基礎演習Ⅱ(イギリスの社会)	2	2	2			
		基礎演習Ⅱ(アメリカの社会)	2	2			2前	
		基礎演習Ⅱ(イギリスの文学・文化)	2	2				2前
		基礎演習Ⅱ(アメリカの文学・文化)	2	2				
		基礎演習Ⅱ(英語学)	2	2				
基礎演習Ⅱ(英語教育学)	2	2				2前		
基礎演習Ⅱ(英語学)	2	2						
研究各論	研究各論(イギリスの歴史)	2	4	16				
	研究各論(イギリスの政治・外交)	3・4	4					
	研究各論(イギリスの社会・思想)	3・4	4					
	研究各論(アメリカの歴史)	2	4			2通		
	研究各論(アメリカの政治・外交)	3・4	4			3通		
	研究各論(アメリカの社会・経済)	3・4	4			3通		
	研究各論(イギリスの文学・文化史)	2	4				2通	
	研究各論(イギリスの小説)	3・4	4				3通	
	研究各論(イギリスの詩)	3・4	4					
	研究各論(イギリスの演劇・美術)	3・4	4					
	研究各論(アメリカの文学・文化史)	2	4					
	研究各論(アメリカの小説)	3・4	4					
	研究各論(アメリカの詩)	3・4	4					
	研究各論(アメリカの映画・批評)	3・4	4				3通	
	研究各論(英語圏の文学・文化)	3・4	4				4通	
	研究各論(日英米の文化交流)	3・4	4			4通		
研究各論(英語学)	2	4				2通		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC					
専門 発展 科目	研究各論	研究各論（英語統語論）	3・4	4	8			3通				
		研究各論（英語意味論・語用論）	3・4	4								
		研究各論（英語音韻論）	3・4	4								
		研究各論（英語教育学）	3・4	4				3通				
		研究各論（日英語の比較）	3・4	4								
		研究各論（第二言語習得論）	3・4	4				4通				
		研究各論（特殊講義：英米の社会）	3・4	4								
		研究各論（特殊講義：英米の文学・文化）	3・4	4								
	学部 共通 各論	共通各論（経済学）	2・3・4	4	8	3通						
		共通各論（日本の行政法）	2・3・4	4								
		共通各論（日本の民法）	2・3・4	4								
		共通各論（日本の経済）	2・3・4	4					4通			
		共通各論（日本の政治）	2・3・4	2					3前			
		共通各論（日本の文化）	2・3・4	4								
		共通各論（思想史）	2・3・4	4					3通			
		共通各論（比較文化論）	2・3・4	4					4通	3通		
		共通各論（言語学）	2・3・4	4						4通		
		共通各論（音声学）	2・3・4	4								
		共通各論（日本語学）	2・3・4	4								
		共通各論（日本語文法論）	2・3・4	4								
	研究 講読	研究講読Ⅰ（イギリスの社会）	2	2	2	2後	2後					
		研究講読Ⅰ（アメリカの社会）	2	2								
		研究講読Ⅰ（イギリスの文学・文化）	2	2								
		研究講読Ⅰ（アメリカの文学・文化）	2	2								
		研究講読Ⅰ（英語学）	2	2								
		研究講読Ⅰ（英語教育学）	2	2					2後			
		研究講読Ⅱ（イギリスの社会）	3・4	4					4	3通	3通	
		研究講読Ⅱ（アメリカの社会）	3・4	4								
		研究講読Ⅱ（イギリスの文学・文化）	3・4	4								
		研究講読Ⅱ（アメリカの文学・文化）	3・4	4								
	研究講読Ⅱ（英語学）	3・4	4									
	研究 演習	研究演習（イギリスの社会）	3・4	8	8	3通4通	3通4通					
		研究演習（アメリカの社会）	3・4	8								
研究演習（イギリスの文学・文化）		3・4	8									
研究演習（アメリカの文学・文化）		3・4	8									
研究演習（英語学）		3・4	8									
	研究演習（英語教育学）	3・4	8				3通4通					
	卒業論文	4	8	8	4通	4通	4通					
	海外協定大学修得科目		8									
教職 科目	教科教育法（英語）A	3	2				3前					
	教科教育法（英語）B	3	2									
	教科教育法（英語）C	3	2									
	教科教育法（英語）D	3	2									
	教育実習（中学校）Ⅰ	4	2									
	教育実習（中学校）Ⅱ	4	2									
	教育実習（高等学校）Ⅰ	4	2				4					
	教育実習（高等学校）Ⅱ	4	2				4					
	合計				124	124	128					

注：外国語科目の必修8単位は英語以外の1種類とする。

※履修モデルA:一般企業(国際ビジネス)、国際機関、外務省、NPO法人  
 ※履修モデルB:マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業  
 ※履修モデルC:教員



<資料2>

●外国語学部 ヨーロッパ学科フランス語圏専攻履修モデル

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
全 学 科	科 情 報	情報処理A	1・2・3・4	2	2	1前	1前	1前	
		情報処理B	1・2・3・4	2					
		情報処理C	1・2・3・4	2					
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	1	4	8 (注)	1通	1通	1通	
		英語Ⅱ	2	4		2通	2通	2通	
		英語Ⅲ	3・4	4		3通	3通		
		ドイツ語Ⅰ	1	4					
		ドイツ語Ⅱ	2	4					
		ドイツ語Ⅲ	3・4	4					
		フランス語Ⅰ	1	4					
		フランス語Ⅱ	2	4					
		フランス語Ⅲ	3・4	4					
		スペイン語Ⅰ	1	4					
		スペイン語Ⅱ	2	4					
		スペイン語Ⅲ	3・4	4					
		ポルトガル語Ⅰ	1	4					3通
		ポルトガル語Ⅱ	2	4					
		ポルトガル語Ⅲ	3・4	4					
		ロシア語Ⅰ	1	4					
		ロシア語Ⅱ	2	4					
	ロシア語Ⅲ	3・4	4						
	中国語Ⅰ	1	4						
	中国語Ⅱ	2	4						
	中国語Ⅲ	3・4	4						
	日本語Ⅰ	1	4						
	日本語Ⅱ	2	4						
	日本語Ⅲ	3・4	4						
共 通 科	教 養 基 礎	哲学	1・2	2	4				
		論理学	1・2	2					
		倫理学	1・2	2				1後	
		文学	1・2	2					
		コミュニケーション論	1・2	2				1後	
		文化人類学	1・2	2				2後	
		法学	1・2	2			1前		
		政治学	1・2	2			3前		
		経済学	1・2	2			2前		
		社会学	1・2	2					
		心理学	1・2	2					1前
		統計学	1・2	2				2後	
		数学	1・2	2					
物理学	1・2	2							
講 義 特 別	特別講義A	1・2・3・4	2						
	特別講義B	1・2・3・4	2						
	特別講義C	1・2・3・4	2						
グ ロ ー バ ル な 多 文 化 共 生	東海地方の歴史・文化	1・2・3・4	2	2					
	日本の歴史・文化	1・2・3・4	2						
	アジアの歴史・文化	1・2・3・4	2						
	ヨーロッパの歴史・文化	1・2・3・4	2			1前			
	南北アメリカの歴史・文化	1・2・3・4	2						
	世界の宗教	1・2・3・4	2						
	世界の文学	1・2・3・4	2						
	民族と国家	1・2・3・4	2						
	国際関係	1・2・3・4	2			2後			
	多文化社会におけるコミュニケーション	1・2・3・4	2				2前		
日本の文化	1・2・3・4	2							
社 会 に お け る 人 間	芸術の世界	1・2・3・4	2	2					
	人文地理学入門	1・2・3・4	2						
	日本国憲法	1・2・3・4	2			1後	1後		
	共生と法	1・2・3・4	2			1前			
	ジェンダー論	1・2・3・4	2				1前		
	社会調査入門	1・2・3・4	2						
	社会福祉	1・2・3・4	2						
	生涯教育論	1・2・3・4	2					2後	
	臨床発達心理学	1・2・3・4	2						
	コミュニティにおけるコミュニケーション	1・2・3・4	2				1後		
日本の社会	1・2・3・4	2							

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC
目	科学技術と人間	情報科学入門	1・2・3・4	2	2			2前	
		生物学	1・2・3・4	2					
		化学	1・2・3・4	2					
		地球科学	1・2・3・4	2					
		科学史	1・2・3・4	2					1前
		科学技術と人間・社会	1・2・3・4	2			3後		
		環境科学	1・2・3・4	2					
	キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3	2					
		インターンシップ	1・2・3	2					
	健康・スポーツ科目	健康科学	1・2・3・4	2					
		生涯スポーツ論	1・2・3・4	2					
		スポーツ実習	1・2・3・4	2	2	1後	2前	2前	
	総合演習科目	総合演習A	3・4	2					3前
		総合演習B	3・4	2					
		総合演習C	3・4	2					
		総合演習D	3・4	2					
		総合演習E	3・4	2					
		総合演習F	3・4	2					
	専攻言語科目	フランス語Ⅰ（総合）	1	4	4	1通	1通	1通	
		フランス語Ⅰ（文法）	1	2	2	1通	1通	1通	
		フランス語Ⅰ（応用）	1	2	2	1通	1通	1通	
フランス語Ⅰ（会話）		1	2	2	1通	1通	1通		
フランス語Ⅱ（総合）		2	2	2	2通	2通	2通		
フランス語Ⅱ（文法）		2	2	2	2通	2通	2通		
フランス語Ⅱ（応用）		2	2	2	2通	2通	2通		
フランス語Ⅱ（会話）		2	2	2	2通	2通	2通		
フランス語Ⅱ（作文）		2	2	2	2通	2通	2通		
フランス語Ⅲ（会話）		3	2	2	3通	3通	3通		
フランス語Ⅲ（作文）		3	2	2	3通	3通	3通		
上級フランス語		4	4	2		4通	4通		
時事フランス語	3・4	2	4通		3通	3通			
関連言語科目	西洋古典語Ⅰ	2・3・4	2						
	西洋古典語Ⅱ	2・3・4	2						
	諸地域言語	2・3・4	4			4通			
専門基礎科目	学部共通基礎科目	言語研究入門	1・2	4	4			1通	
		文学・文化研究入門	1・2	4			1通		
		政治・経済研究入門	1・2	4		1通			
		歴史・社会研究入門	1・2	4					
	専攻基礎科目	研究概論（フランス語圏歴史・社会）	1	2	4		1前		
		研究概論（フランス語圏政治・経済）	1	2		1後			
		研究概論（フランス語圏文化）	1	2		1前	1前	1前	
		研究概論（フランス語圏文学・言語）	1	2			1後	1後	
		基礎演習Ⅰ	1	2		2	1後	1後	1後
		基礎演習Ⅱ（フランス語圏社会）	2	2		2	2前		
基礎演習Ⅱ（フランス語圏文化）	2	2		2前	2前				
専門発展科目	学科共通発展科目	研究各論（ヨーロッパ社会）	3・4	4					
		研究各論（ヨーロッパ文化）	3・4	4			4通		
		研究演習（ヨーロッパ社会）	3・4	4					
		研究演習（ヨーロッパ文化）	3・4	4					
	研究各論	研究各論（フランス史）	2・3・4	8	12		3通		
		研究各論（フランス政治・経済）	2・3・4	8		3通			
		研究各論（フランス語学）	2・3・4	8				4通	
		研究各論（フランス文学）	2・3・4	8			3通	3通	
		研究各論（フランス文化）	2・3・4	8		4通	3通	3通	
		研究各論（特殊講義）	2・3・4	4			4通		
	学部共通各論	共通各論（経済学）	2・3・4	4	8		2通		
		共通各論（日本の行政法）	2・3・4	4		3通			
		共通各論（日本の民法）	2・3・4	4		3通			
		共通各論（日本の経済）	2・3・4	4		3通			
		共通各論（日本の政治）	2・3・4	2		4前			
		共通各論（日本の文化）	2・3・4	4			3通		
共通各論（思想史）		2・3・4	4						
共通各論（比較文化論）		2・3・4	4			3通			
共通各論（言語学）		2・3・4	4				3通		
共通各論（音声学）		2・3・4	4				3通		
共通各論（日本語学）		2・3・4	4						
共通各論（日本語文法論）		2・3・4	4						
共通各論（日本語教育教材論）	2・3・4	4							
共通各論（日本語教授法）	2・3・4	4							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC
研究 演習	研究講読 (フランス語圏文学・言語)	2・3・4	4	8			2後
	研究講読 (フランス語圏社会)	3・4	8		3通4通		
	研究講読 (フランス語圏文化)	3・4	8			3通4通	3通4通
	研究演習 (フランス史)	3・4	8	8			
	研究演習 (フランス政治・経済)	3・4	8		3通4通		
	研究演習 (フランス語学)	3・4	8				3通4通
	研究演習 (フランス文学)	3・4	8				
研究演習 (フランス文化)	3・4	8		3通4通			
卒業論文		4	8	8	4通	4通	4通
海外協定大学修得科目			8				
教職 科目	教科教育法 (フランス語) A	3	2				3前
	教科教育法 (フランス語) B	3	2				
	教科教育法 (フランス語) C	3	2				
	教科教育法 (フランス語) D	3	2				
	教育実習 (中学校) I	4	2				
	教育実習 (中学校) II	4	2				
	教育実習 (高等学校) I	4	2				4前
	教育実習 (高等学校) II	4	2				4後
合計					124	124	124

注：外国語科目の必修8単位はフランス語以外の1種類とする。

- ※履修モデルA:一般企業(国際ビジネス)、国際機関、外務省、NPO法人
- ※履修モデルB:マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業
- ※履修モデルC:教員

<資料3>

●外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC		
全 学 科	科 情 報 目 録	情報処理A	1・2・3・4	2	2	1前	1前	1前	
		情報処理B	1・2・3・4	2					
		情報処理C	1・2・3・4	2					
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	1	4	8 (注)	1通	1通	1通	
		英語Ⅱ	2	4		2通	2通	2通	
		英語Ⅲ	3・4	4		3通	3通		
		ドイツ語Ⅰ	1	4					
		ドイツ語Ⅱ	2	4					
		ドイツ語Ⅲ	3・4	4					
		フランス語Ⅰ	1	4					
		フランス語Ⅱ	2	4					
		フランス語Ⅲ	3・4	4					
		スペイン語Ⅰ	1	4					
		スペイン語Ⅱ	2	4					
		スペイン語Ⅲ	3・4	4					
		ポルトガル語Ⅰ	1	4					3通
		ポルトガル語Ⅱ	2	4					
		ポルトガル語Ⅲ	3・4	4					
		ロシア語Ⅰ	1	4					
		ロシア語Ⅱ	2	4					
		ロシア語Ⅲ	3・4	4					
		中国語Ⅰ	1	4					
		中国語Ⅱ	2	4					
	中国語Ⅲ	3・4	4						
	日本語Ⅰ	1	4						
	日本語Ⅱ	2	4						
	日本語Ⅲ	3・4	4						
共 通 科	教 養 基 礎	哲学	1・2	2	4				
		論理学	1・2	2					
		倫理学	1・2	2				1後	
		文学	1・2	2					
		コミュニケーション論	1・2	2				1後	
		文化人類学	1・2	2				2後	
		法学	1・2	2			1前		
		政治学	1・2	2			3前		
		経済学	1・2	2			2前		
		社会学	1・2	2					
		心理学	1・2	2					1前
		統計学	1・2	2				2後	
		数学	1・2	2					
		物理学	1・2	2					
	講 義 特 別	特別講義A	1・2・3・4	2					
		特別講義B	1・2・3・4	2					
		特別講義C	1・2・3・4	2					
	教 養 科 目	グ ロ ー バ ル な 多 文 化 共 生	東海地方の歴史・文化	1・2・3・4	2	2			
日本の歴史・文化			1・2・3・4	2					
アジアの歴史・文化			1・2・3・4	2					
ヨーロッパの歴史・文化			1・2・3・4	2			1前		
南北アメリカの歴史・文化			1・2・3・4	2					
世界の宗教			1・2・3・4	2					
世界の文学			1・2・3・4	2					
民族と国家			1・2・3・4	2					
国際関係			1・2・3・4	2			2後		
多文化社会におけるコミュニケーション			1・2・3・4	2					2前
日本の文化			1・2・3・4	2					
科	社 会 に お け る 人 間	芸術の世界	1・2・3・4	2	2				
		人文地理学入門	1・2・3・4	2					
		日本国憲法	1・2・3・4	2			1後		1後
		共生と法	1・2・3・4	2			1前		
		ジェンダー論	1・2・3・4	2				1前	
		社会調査入門	1・2・3・4	2					
		社会福祉	1・2・3・4	2					
		生涯教育論	1・2・3・4	2					2後
		臨床発達心理学	1・2・3・4	2					
		コミュニティにおけるコミュニケーション	1・2・3・4	2				1後	
日本の社会	1・2・3・4	2							

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
目	科学技術と人間	情報科学入門	1・2・3・4	2	2		2前		
		生物学	1・2・3・4	2					
		化学	1・2・3・4	2					
		地球科学	1・2・3・4	2					
		科学史	1・2・3・4	2				1前	
		科学技術と人間・社会	1・2・3・4	2			3後		
		環境科学	1・2・3・4	2					
	キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3	2					
		インターンシップ	1・2・3	2					
	健康・スポーツ科目	健康科学	1・2・3・4	2					
		生涯スポーツ論	1・2・3・4	2					
		スポーツ実習	1・2・3・4	2	2	1後	2前	2前	
	総合演習科目	総合演習A	3・4	2				3前	
		総合演習B	3・4	2					
		総合演習C	3・4	2					
		総合演習D	3・4	2					
		総合演習E	3・4	2					
		総合演習F	3・4	2					
	専攻言語科目	スペイン語Ⅰ(総合)	1	4	4	1通	1通	1通	
スペイン語Ⅰ(実習)		1	2	2	1通	1通	1通		
スペイン語Ⅰ(会話)		1	4	4	1通	1通	1通		
スペイン語Ⅱ(講読)		2	2	2	2通	2通	2通		
スペイン語Ⅱ(文法)		2	2	2	2通	2通	2通		
スペイン語Ⅱ(会話)		2	4	4	2通	2通	2通		
スペイン語Ⅱ(作文)		2	2	2	2通	2通	2通		
スペイン語Ⅲ(会話)		3	2	4		3通	3通		
スペイン語Ⅲ(作文)		3	2			3通	3通		
上級スペイン語		3・4	2		3通	4通	4通		
時事スペイン語	3・4	2	4通		4通	4通			
関連言語科目	西洋古典語Ⅰ	2・3・4	2						
	西洋古典語Ⅱ	2・3・4	2						
	諸地域言語	2・3・4	4						
専門基礎科目	基学 基礎科目 共通	言語研究入門	1・2	4	4			1通	
		文学・文化研究入門	1・2	4			1通		
		政治・経済研究入門	1・2	4		1通			
		歴史・社会研究入門	1・2	4					
	専攻基礎科目	基礎演習Ⅰ	1	2	2	1前	1前	1前	
		研究概論(スペインの社会)	1	2	10	1後	1後	1後	
		研究概論(ラテンアメリカの社会)	1	2		1前	1前	1前	
		研究概論(スペイン語圏の言語)	1	2		1前	1前	1前	
		研究概論(スペイン語圏の文学)	1	2		1後	1後	1後	
		基礎演習Ⅱ(スペイン語圏社会)	2	2		2後			
	基礎演習Ⅱ(スペイン語圏文化)	2	2			2前	2前		
	発学 展学科 科目 共通	研究各論	研究各論(ヨーロッパ社会)	3・4	4	12			
			研究各論(ヨーロッパ文化)	3・4	4			3通	
			研究演習(ヨーロッパ社会)	3・4	4				
研究演習(ヨーロッパ文化)			3・4	4					
研究各論		研究各論(スペイン史)	2・3・4	4	2通				
		研究各論(スペイン政治・経済)	2・3・4	4	3通				
		研究各論(スペイン社会)	2・3・4	4	4通				
		研究各論(スペイン文学)	2・3・4	4			2通	2通	
		研究各論(スペイン文化)	2・3・4	4			3通		
		研究各論(スペイン語圏の言語)	2・3・4	4				4通	
		研究各論(ラテンアメリカ史)	2・3・4	4	2通				
		研究各論(ラテンアメリカ政治・経済)	2・3・4	4	3通				
		研究各論(ラテンアメリカ文学)	2・3・4	4			2通	2通	
		研究各論(ラテンアメリカ文化)	2・3・4	4			3通		
研究各論(特殊講義)	2・3・4	4							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
専門 発展科目	学部 共通 各論	共通各論（経済学）	2・3・4	4	8	2通		
		共通各論（日本の行政法）	2・3・4	4				
		共通各論（日本の民法）	2・3・4	4				
		共通各論（日本の経済）	2・3・4	4		3通		
		共通各論（日本の政治）	2・3・4	2		4前		
		共通各論（日本の文化）	2・3・4	4			2通	
		共通各論（思想史）	2・3・4	4				
		共通各論（比較文化論）	2・3・4	4			3通	
		共通各論（言語学）	2・3・4	4				2通
		共通各論（音声学）	2・3・4	4				3通
		共通各論（日本語学）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語文法論）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語教育教材論）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語教授法）	2・3・4	4				
	講 読 究	研究講読（スペイン語圏歴史・社会）	3・4	8	8	3通		
		研究講読（スペイン語圏言語・文化）	3・4	8			3通	3通
	研 究 演 習	研究演習（スペイン史）	3・4	8	8			
		研究演習（スペイン社会・経済）	3・4	8				
		研究演習（スペイン語圏文学）	3・4	8			3通4通	
		研究演習（スペイン語学）	3・4	8				3通4通
		研究演習（ラテンアメリカ史）	3・4	8				
		研究演習（ラテンアメリカ政治・経済）	3・4	8		3通4通		
		研究演習（ラテンアメリカ文化）	3・4	8				
		卒業論文		4	8	4通	4通	4通
		海外協定大学修得科目			8			
	教 職 科 目	教科教育法（スペイン語）A	3	2				3前
教科教育法（スペイン語）B		3	2					
教科教育法（スペイン語）C		3	2					
教科教育法（スペイン語）D		3	2					
教育実習（中学校）I		4	2					
教育実習（中学校）II		4	2					
教育実習（高等学校）I		4	2				4	
	教育実習（高等学校）II	4	2				4	
	合計				124	124	124	

注：外国語科目の必修8単位はスペイン語以外の1種類とする。

※履修モデルA:一般企業(国際ビジネス)、国際機関、外務省、NPO法人

※履修モデルB:マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業

※履修モデルC:教員

<資料4>

●外国語学部 ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻履修モデル

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
全 学 科 目	科 情 目 報	情報処理A	1・2・3・4	2	2	1前	1前	1前	
		情報処理B	1・2・3・4	2					
		情報処理C	1・2・3・4	2					
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	1	4	8 (注)	1通	1通	1通	
		英語Ⅱ	2	4		2通	2通	2通	
		英語Ⅲ	3・4	4		3通	3通		
		ドイツ語Ⅰ	1	4					
		ドイツ語Ⅱ	2	4					
		ドイツ語Ⅲ	3・4	4					
		フランス語Ⅰ	1	4					
		フランス語Ⅱ	2	4					
		フランス語Ⅲ	3・4	4					
		スペイン語Ⅰ	1	4					
		スペイン語Ⅱ	2	4					
		スペイン語Ⅲ	3・4	4					
		ポルトガル語Ⅰ	1	4					3通
		ポルトガル語Ⅱ	2	4					
		ポルトガル語Ⅲ	3・4	4					
		ロシア語Ⅰ	1	4					
		ロシア語Ⅱ	2	4					
		ロシア語Ⅲ	3・4	4					
中国語Ⅰ	1	4							
中国語Ⅱ	2	4							
中国語Ⅲ	3・4	4							
日本語Ⅰ	1	4							
日本語Ⅱ	2	4							
日本語Ⅲ	3・4	4							
共 通	教 養 基 礎	哲学	1・2	2	4				
		論理学	1・2	2					
		倫理学	1・2	2				1後	
		文学	1・2	2					
		コミュニケーション論	1・2	2				1後	
		文化人類学	1・2	2				2後	
		法学	1・2	2			1前		
		政治学	1・2	2			3前		
		経済学	1・2	2			2前		
		社会学	1・2	2					
		心理学	1・2	2					1前
		統計学	1・2	2				2後	
		数学	1・2	2					
		物理学	1・2	2					
	講 義 特 別	特別講義A	1・2・3・4	2					
		特別講義B	1・2・3・4	2					
		特別講義C	1・2・3・4	2					
	教 養 科 目	グ ロ ー バ ル な 多 文 化 共 生	東海地方の歴史・文化	1・2・3・4	2	2			
日本の歴史・文化			1・2・3・4	2					
アジアの歴史・文化			1・2・3・4	2					
ヨーロッパの歴史・文化			1・2・3・4	2			1前		
南北アメリカの歴史・文化			1・2・3・4	2					
世界の宗教			1・2・3・4	2					
世界の文学			1・2・3・4	2					
民族と国家			1・2・3・4	2					
国際関係			1・2・3・4	2			2後		
多文化社会におけるコミュニケーション			1・2・3・4	2					2前
日本の文化			1・2・3・4	2					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC		
科目	社会における人間	芸術の世界	1・2・3・4	2	2					
		人文地理学入門	1・2・3・4	2						
		日本国憲法	1・2・3・4	2		1後		1後		
		共生と法	1・2・3・4	2		1前				
		ジェンダー論	1・2・3・4	2			1前			
		社会調査入門	1・2・3・4	2						
		社会福祉	1・2・3・4	2						
		生涯教育論	1・2・3・4	2				2後		
		臨床発達心理学	1・2・3・4	2						
		コミュニティにおけるコミュニケーション	1・2・3・4	2			1後			
		日本の社会	1・2・3・4	2						
		科学技術と人間	情報科学入門	1・2・3・4		2	2		2前	
			生物学	1・2・3・4		2				
			化学	1・2・3・4		2				
	地球科学		1・2・3・4	2						
	科学史		1・2・3・4	2				1前		
	科学技術と人間・社会		1・2・3・4	2	3後					
	キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3	2						
		インターンシップ	1・2・3	2						
	健康・スポーツ科目	健康科学	1・2・3・4	2						
		生涯スポーツ論	1・2・3・4	2						
		スポーツ実習	1・2・3・4	2	2	1後	2前	2前		
	総合演習科目	総合演習A	3・4	2				3前		
		総合演習B	3・4	2						
		総合演習C	3・4	2						
		総合演習D	3・4	2						
		総合演習E	3・4	2						
総合演習F		3・4	2							
専攻言語科目	ドイツ語Ⅰ(総合)	1	6	6	1通	1通	1通			
	ドイツ語Ⅰ(会話)	1	4	4	1通	1通	1通			
	ドイツ語Ⅱ(講読)	2	4	4	2通	2通	2通			
	ドイツ語Ⅱ(文法)	2	2	2	2通	2通	2通			
	ドイツ語Ⅱ(会話)	2	2	2	2通	2通	2通			
	ドイツ語Ⅱ(作文)	2	2	2	2通	2通	2通			
	ドイツ語Ⅲ(会話)	3	2	2	3通	3通	3通			
	ドイツ語Ⅲ(作文)	3	2	2	3通	3通	3通			
	ドイツ語Ⅳ(会話)	4	2		4通	4通				
	ドイツ語Ⅳ(作文)	4	2			4通	4通			
関連言語科目	上級ドイツ語	3・4	2	2	3通	3通	3通			
	時事ドイツ語	3・4	2		3通					
	西洋古典語Ⅰ	2・3・4	2							
専攻基礎科目	西洋古典語Ⅱ	2・3・4	2							
	諸地域言語	2・3・4	4		4通					
専門基礎科目	基学 部共 通	言語研究入門	1・2	4	4			1通		
		文学・文化研究入門	1・2	4						
		政治・経済研究入門	1・2	4		1通				
		歴史・社会研究入門	1・2	4			1通			
	専攻 基礎 科	研究概論(ドイツ語圏社会)	1	2	4	1前	1前	1前		
		研究概論(ドイツ語圏文化)	1	2		1後	1後			
		研究概論(ドイツ語圏文学)	1	2				1後		
		基礎演習Ⅰ	1	2		2	1後	1後	1後	
基礎演習Ⅱ	2	2	2	2前	2前	2前				



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
専門 発展科目	発学 展科 科共 目通	研究各論（ヨーロッパ社会）	3・4	4		3通		
		研究各論（ヨーロッパ文化）	3・4	4			3通	
		研究演習（ヨーロッパ社会）	3・4	4				
		研究演習（ヨーロッパ文化）	3・4	4			4通	
	研究各論	研究各論（ドイツ史）	2・3・4	4	12		2通	2通
		研究各論（ドイツ政治）	2・3・4	4		2通		
		研究各論（ドイツ経済）	2・3・4	4		3通		
		研究各論（ドイツ法）	2・3・4	4		3通		
		研究各論（ドイツ語学）	2・3・4	4				2通
		研究各論（ドイツ文学）	2・3・4	4				2通
		研究各論（ドイツ文化）	2・3・4	4			2通	2通
		研究各論（北欧の言語・文化）	2・3・4	4			3通	
	学部 共通各論	共通各論（経済学）	2・3・4	4	8	2通		
		共通各論（日本の行政法）	2・3・4	4				
		共通各論（日本の民法）	2・3・4	4				
		共通各論（日本の経済）	2・3・4	4			3通	
		共通各論（日本の政治）	2・3・4	2		3前		
		共通各論（日本の文化）	2・3・4	4			2通	
		共通各論（思想史）	2・3・4	4				
		共通各論（比較文化論）	2・3・4	4		3通		
		共通各論（言語学）	2・3・4	4				2通
		共通各論（音声学）	2・3・4	4				3通
		共通各論（日本語学）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語文法論）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語教育教材論）	2・3・4	4				
		共通各論（日本語教授法）	2・3・4	4				
	講研 読究	研究講読（ドイツ語圏社会）	3・4	8	8	3通	3通	
研究講読（ドイツ語圏文化）		3・4	8				3通	
研究 演習	研究演習（ドイツ史）	3・4	8	8				
	研究演習（ドイツ政治）	3・4	8		3通4通			
	研究演習（ドイツ経済）	3・4	8					
	研究演習（ドイツ法）	3・4	8					
	研究演習（ドイツ語学）	3・4	8					
	研究演習（ドイツ文学）	3・4	8				3通4通	
	研究演習（ドイツ文化）	3・4	8			3通4通		
研究演習（北欧の言語・文化）	3・4	8						
卒業論文		4	8	8	4通	4通	4通	
海外協定大学修得科目			8					
教職 科目	教科教育法（ドイツ語）A	3	2				3前	
	教科教育法（ドイツ語）B	3	2					
	教科教育法（ドイツ語）C	3	2					
	教科教育法（ドイツ語）D	3	2					
	教育実習（中学校）Ⅰ	4	2					
	教育実習（中学校）Ⅱ	4	2					
	教育実習（高等学校）Ⅰ	4	2				4	
教育実習（高等学校）Ⅱ	4	2				4		
合計					124	124	124	

注：外国語科目の必修8単位はドイツ語以外の1種類とする。

※履修モデルA:一般企業(国際ビジネス)、国際機関、外務省、NPO法人

※履修モデルB:マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業

※履修モデルC:教員

<資料5>

●外国語学部 中国学科履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC	
全 学 科	科 情 目 報	情報処理A	1・2・3・4	2	2	1前	1前	1前
		情報処理B	1・2・3・4	2				
		情報処理C	1・2・3・4	2				
	外 国 語 科 目	英語Ⅰ	1	4	8 (注)		1通	1通
		英語Ⅱ	2	4			2通	2通
		英語Ⅲ	3・4	4			3通	3通
		ドイツ語Ⅰ	1	4				
		ドイツ語Ⅱ	2	4				
		ドイツ語Ⅲ	3・4	4				
		フランス語Ⅰ	1	4			1通	
		フランス語Ⅱ	2	4			2通	
		フランス語Ⅲ	3・4	4			3通	
		スペイン語Ⅰ	1	4				
		スペイン語Ⅱ	2	4				
		スペイン語Ⅲ	3・4	4				
		ポルトガル語Ⅰ	1	4				
		ポルトガル語Ⅱ	2	4				
		ポルトガル語Ⅲ	3・4	4				
		ロシア語Ⅰ	1	4				
		ロシア語Ⅱ	2	4				
		ロシア語Ⅲ	3・4	4				
		中国語Ⅰ	1	4				
		中国語Ⅱ	2	4				
	中国語Ⅲ	3・4	4					
	日本語Ⅰ	1	4					
	日本語Ⅱ	2	4					
	日本語Ⅲ	3・4	4					
共 通 科	教 養 基 礎	哲学	1・2	2	4			
		論理学	1・2	2				
		倫理学	1・2	2				1後
		文学	1・2	2				
		コミュニケーション論	1・2	2				1後
		文化人類学	1・2	2				2後
		法学	1・2	2			1前	
		政治学	1・2	2			3前	
		経済学	1・2	2			2前	
		社会学	1・2	2				
		心理学	1・2	2				
		統計学	1・2	2				2後
		数学	1・2	2				
		物理学	1・2	2				
講 義 別	特別講義A	1・2・3・4	2					
	特別講義B	1・2・3・4	2					
	特別講義C	1・2・3・4	2					
教 養 科 目	グ ロ ー バ ル な 多 文 化 共 生	東海地方の歴史・文化	1・2・3・4	2	2			
		日本の歴史・文化	1・2・3・4	2				
		アジアの歴史・文化	1・2・3・4	2			1前	
		ヨーロッパの歴史・文化	1・2・3・4	2				
		南北アメリカの歴史・文化	1・2・3・4	2				
		世界の宗教	1・2・3・4	2				
		世界の文学	1・2・3・4	2				
		民族と国家	1・2・3・4	2				
		国際関係	1・2・3・4	2			2後	
		多文化社会におけるコミュニケーション	1・2・3・4	2				2前
社 会 に お け る	芸術の世界	1・2・3・4	2	2				
	人文地理学入門	1・2・3・4	2					
	日本国憲法	1・2・3・4	2			1後	1後	
	共生と法	1・2・3・4	2			1前		
	ジェンダー論	1・2・3・4	2				1前	
社会調査入門	1・2・3・4	2						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC
目	人間	社会福祉	1・2・3・4	2				
		生涯教育論	1・2・3・4	2				2後
		臨床発達心理学	1・2・3・4	2				
		コミュニティにおけるコミュニケーション	1・2・3・4	2			1後	
		日本の社会	1・2・3・4	2				
	科学技術と人間	情報科学入門	1・2・3・4	2			2前	
		生物学	1・2・3・4	2	2			
		化学	1・2・3・4	2				
		地球科学	1・2・3・4	2				
		科学史	1・2・3・4	2				1前
	科学技術と人間・社会	1・2・3・4	2			3後		
	キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3	2				
		インターンシップ	1・2・3	2				
	健康・スポーツ科目	健康科学	1・2・3・4	2				
		生涯スポーツ論	1・2・3・4	2				
		スポーツ実習	1・2・3・4	2	2	1後	2前	2前
総合演習科目	総合演習A	3・4	2				3前	
	総合演習B	3・4	2					
	総合演習C	3・4	2					
	総合演習D	3・4	2					
	総合演習E	3・4	2					
	総合演習F	3・4	2					
専攻言語科目	中国語Ⅰ（基礎）	1	6	6	1前	1前	1前	
	中国語Ⅰ（総合）	1	2	2	1後	1後	1後	
	中国語Ⅰ（文法作文）	1	2	2	1後	1後	1後	
	中国語Ⅰ（会話）	1	2	2	1後	1後	1後	
	中国語Ⅱ（総合）	2	4	4	2通	2通	2通	
	中国語Ⅱ（講読）	2	2	2	2通	2通	2通	
	中国語Ⅱ（文法作文）	2	2	2	2通	2通	2通	
	中国語Ⅱ（会話）	2	2	2	2通	2通	2通	
	中国語Ⅲ（講読）	3・4	2	2	3通	3通	3通	
	中国語Ⅲ（文法作文）	3・4	2	2	3通	3通	3通	
	中国語Ⅲ（会話）	3・4	2	2	3通	3通	3通	
	時事中国語	3・4	2					
	ビジネス中国語	3・4	2	2	4通			
東アジア言語	2・3・4	2	2	4通	4通	4通		
関連言語科目	西洋古典語Ⅰ	2・3・4	2					
	西洋古典語Ⅱ	2・3・4	2					
	諸地域言語	2・3・4	4					
専門基礎科目	基学 部共 目通	言語研究入門	1・2	4	4			1通
		文学・文化研究入門	1・2	4			1通	
		政治・経済研究入門	1・2	4				
		歴史・社会研究入門	1・2	4				
	学科 基礎 科目	研究概論（中国語・言語民族）	1	2	6			1前
		研究概論（文学・文化）	1	2			1後	1後
		研究概論（歴史・社会）	1	2			1前	1前
		研究概論（政治・経済）	1	2			1後	
		研究概論（東アジア社会）	1	2		1後	1後	
		基礎演習Ⅰ	1	2	2	1後	1後	1後
		基礎演習Ⅱ（中国語・言語民族）	2	2				2前
基礎演習Ⅱ（文学・文化）	2	2						
基礎演習Ⅱ（歴史・社会）	2	2						
基礎演習Ⅱ（政治・経済）	2	2		2前				
研究各論	研究各論（中国語）	2・3・4	4	8			2通	
	研究各論（言語民族）	2・3・4	4				3通	
	研究各論（文学）	2・3・4	4				2通	
	研究各論（文化）	2・3・4	4				3通	
	研究各論（歴史）	2・3・4	4				4通	
	研究各論（社会）	2・3・4	4					
	研究各論（政治）	2・3・4	4			2通		
	研究各論（経済）	2・3・4	4			3通		
	研究各論（東アジア言語文化）	2・3・4	4				4通	
研究各論（東アジア社会）	2・3・4	4		4通				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	必修単位	履修モデルA	履修モデルB	履修モデルC		
専門 発展科目	学部 共通 各論	共通各論（経済学）	2・3・4	4	8	2通			
		共通各論（日本の行政法）	2・3・4	4		3通			
		共通各論（日本の民法）	2・3・4	4		3通			
		共通各論（日本の経済）	2・3・4	4		4通			
		共通各論（日本の政治）	2・3・4	2					
		共通各論（日本の文化）	2・3・4	4				2通	
		共通各論（思想史）	2・3・4	4				3通	
		共通各論（比較文化論）	2・3・4	4				4通	
		共通各論（言語学）	2・3・4	4					2通
		共通各論（音声学）	2・3・4	4					
		共通各論（日本語学）	2・3・4	4					
		共通各論（日本語文法論）	2・3・4	4					
		共通各論（日本語教育教材論）	2・3・4	4					
	共通各論（日本語教授法）	2・3・4	4				4通		
	研究 講読	研究講読（中国語・言語民族）	3・4	4	4			3通	
		研究講読（文学・文化）	3・4	4			3通		
		研究講読（歴史・社会）	3・4	4			4通		
		研究講読（政治・経済）	3・4	4		3通			
	研究 演習	研究演習（中国語）	3・4	8	8			3通4通	
		研究演習（言語民族）	3・4	8					
		研究演習（文学）	3・4	8			3通4通		
		研究演習（文化）	3・4	8					
		研究演習（歴史）	3・4	8					
研究演習（社会）		3・4	8						
研究演習（政治）		3・4	8	3通4通					
研究演習（経済）	3・4	8							
	卒業論文	4	8	8	4通	4通	4通		
海外協定大学修得科目			2						
教職 科目	教科教育法（中国語）A	3	2				3前		
	教科教育法（中国語）B	3	2						
	教科教育法（中国語）C	3	2						
	教科教育法（中国語）D	3	2						
	教育実習（中学校）I	4	2						
	教育実習（中学校）II	4	2						
	教育実習（高等学校）I	4	2				4		
教育実習（高等学校）II	4	2				4			
合計					124	124	124		

注：外国語科目の必修8単位は中国語以外の1種類とする。

※履修モデルA: 一般企業(国際ビジネス)、国際機関、外務省、NPO法人  
 ※履修モデルB: マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業  
 ※履修モデルC: 教員

<資料6-A>

●外国学部 国際関係学科履修モデルA: 外務省、国際機関、一般企業(国際ビジネス)、国際ジャーナリズム

科目区分	卒業要件単位	1年次		単位	2年次		単位	3年次		単位	4年次		単位	
		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		
全学共通科目	情報科目	2	情報処理A		2									
	外国語科目	8	フランス語 I		4	フランス語 II		4	ドイツ語 I		2			
	教養科目	教養基礎	4	法学 政治学 論理学		2 2 2								
		グローバルな多文化共生	2	ヨーロッパの歴史・文化		2	国際関係		2					
		社会における人間	2	芸術の世界 日本国憲法		2 2								
		科学技術と人間	2				科学技術と人間・社会		2					
		健康・スポーツ科目	2	スポーツ実習		2								
	専攻言語科目	20	リーディング・初級A(精読)	2	リーディング・中級	2	総合英語	2	英語表現法(プレゼンテーション)	2			2	
		リーディング・初級B(速読)	2	オーラル・コミュニケーション・中級	2	実用文書英語	2							
		オーラル・コミュニケーション・初級	2	ライティング・中級	2									
		ライティング・初級	2											
関連言語科目	2					諸地域言語		2						
専門基礎科目	学部共通基礎科目	4	政治・経済研究入門		4									
	学科基礎科目	2	研究概論(国際関係)		2									
		4	基礎演習 I		2	基礎演習 II		2						
専門発展科目	研究各論	28	66 ※2		研究各論(国際法総論)	4	研究各論(国際経済各論)	4	研究各論(グローバル・ガバナンス)	4			4	
					研究各論(国際経済総論)	4	研究各論(国際人権法)	4	研究各論(イスラム圏研究)	4			4	
					研究各論(国際政治学)	4	研究各論(国際協力) 研究各論(民族問題)	2 2						
	共通各論	8			共通各論(日本の行政法)	4	共通各論(日本の政治)	2						
					共通各論(日本の経済)	4								
	研究講読	4					研究講読(国際関係)	4						
研究演習	8					研究演習(国際関係)	4	研究演習(国際関係)	4			4		
卒業論文	8							卒業論文	8			8		
合計	124			36		36		30				22		

※1 左枠の計22単位を含む

※2 左枠の計60単位を含む

<資料6-B>

●外国学部 国際関係学科履修モデルB: マスコミ(出版、ジャーナリズム、放送)、翻訳、通訳、旅行業

科目区分	卒業要件単位	1年次		単位	2年次		単位	3年次		単位	4年次		単位	
		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		
全学共通科目	情報科目	2		情報処理A	2	情報処理B	2							
	外国語科目	8		スペイン語 I	4	スペイン語 II	4	ロシア語 I	4					
	教養科目	教養基礎	4	30 ※1	文化人類学	2	経済学	2						
		グローバルな多文化共生	2		コミュニケーション論	2								
		社会における人間	2		世界の文学	2								
		科学技術と人間	2		ジェンダー論	2								
		健康・スポーツ科目	2		情報科学入門	2								
		スポーツ実習	2											
専攻言語科目	20		リーディング・初級A(精読)	2	リーディング・中級	2	総合英語	2	実用文書英語	2				
			リーディング・初級B(速読)	2	オーラル・コミュニケーション・中級	2	英語表現法(プレゼンテーション)	2						
			オーラル・コミュニケーション・初級	2	ライティング・中級	2								
			ライティング・初級	2										
関連言語科目	2							西洋古典語I	2					
専門基礎科目	学部共通基礎科目	4		文学・文化研究入門	4									
	学科基礎科目	2		研究概論(国際文化)	2									
		4		基礎演習 I	2	基礎演習 II	2							
専門発展科目	研究各論	28 ※2		研究各論(宗教学)	2	研究各論(国際関係史)	4	研究各論(ロシア政治史)	4					
				研究各論(民族音楽研究)	4	研究各論(日本語研究)	2							
				研究各論(文学・批評)	4	研究各論(民族学)	2							
				研究各論(児童文学研究)	4	研究各論(文化人類学各論)	4							
	共通各論	8		共通各論(日本の文化)	4	共通各論(比較文化論)	4	共通各論(経済学)	4					
研究講読	4				研究講読(国際文化)	4								
研究演習	8				研究演習(国際文化)	4	研究演習(国際文化)	4						
卒業論文	8							卒業論文	8					
合計	124			34		34		34				22		

※1 左枠の計22単位を含む

※2 左枠の計60単位を含む

<資料6-C>

●外国学部 国際関係学科履修モデルC: 地方自治体等行政機関の国際課職員、NPO法人

科目区分	卒業要件単位	1年次		単位	2年次		単位	3年次		単位	4年次		単位		
		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)		(前期)	(後期)			
全学共通科目	情報科目	2		情報処理A	2										
	外国語科目	8		ポルトガル語Ⅰ	4	ポルトガル語Ⅱ	4	ポルトガル語Ⅲ	2	ポルトガル語Ⅲ	2				
								中国語Ⅰ	2	中国語Ⅰ	2				
	教養科目	4	30 ※1		社会学	2									
					心理学	2									
					グローバルな多文化共生	2		民族と国家(集中)	2						
					社会における人間	2		共生と法	2						
	科学技術と人間	2		環境科学	2										
健康・スポーツ科目	2		スポーツ実習	2											
専攻言語科目	20		リーディング・初級A(精読)	2	リーディング・中級	2	総合英語	2	英語表現法(プレゼンテーション)	2			2		
			リーディング・初級B(速読)	2	オーラル・コミュニケーション・中級	2	実用文書英語	2							
			オーラル・コミュニケーション・初級	2	ライティング・中級	2									
			ライティング・初級	2											
関連言語科目	2				諸地域言語	2									
専門基礎科目	学部共通基礎科目	4		言語研究入門	4										
	学科基礎科目	2		研究概論(国際文化)	2										
		4		基礎演習Ⅰ	2	基礎演習Ⅱ	2								
専門発展科目	研究各論	28 ※2		研究各論(多文化共生論)	4	研究各論(地域社会論)	4	研究各論(国際法各論)	4						
				研究各論(文化人類学総論)	4	研究各論(NPO論)	2								
				研究各論(社会言語学)	2	研究各論(多言語社会研究)	4								
				研究各論(異文化コミュニケーション論)	4	研究各論(民族言語研究)	4								
	共通各論	8		共通各論(日本語教育教材論)	4	共通各論(言語学)	4	共通各論(日本の民法)	4						
	研究講読	4				研究講読(国際文化)	4								
研究演習	8				研究演習(国際文化)	4	研究演習(国際文化)	4							
卒業論文	8								卒業論文	8					
合計	124			32		34		32				26			

※1 左枠の計22単位を含む

※2 左枠の計60単位を含む